

中華人民共和国
「企業の社会的責任（CSR）実践
における企業と社会組織との連携」調査
事例集

平成28年3月
(2016年)

独立行政法人国際協力機構
中華人民共和国事務所

中国事
J R
16-06

中華人民共和国
「企業の社会的責任（CSR）実践
における企業と社会組織との連携」調査
事例集

平成28年3月
(2016年)

独立行政法人国際協力機構
中華人民共和国事務所

目 次

1. 事例研究概要	1
1-1 背景と目標	3
1-2 実施方案	3
1-2-1 研究対象	3
1-2-2 研究方法	9
1-2-3 調査実施期間	10
1-2-4 定義と専門用語	10
1-2-5 事例集作成にあたっての留意点	12
2. 在中日系企業の事例	13
2-1 オリnpas中国グループ	15
2-2 東芝中国グループ	20
2-3 富士フイルム中国グループ	29
2-4 富士ゼロックス中国グループ	33
2-5 トヨタ自動車中国グループ	39
2-6 国誉中国グループ	48
2-7 花王中国グループ	52
2-8 キヤノン在中国グループ	58
2-9 理光中国グループ	67
2-10 日産自動車中国グループ	71
2-11 日電中国グループ	79
2-12 日立中国グループ	87
2-13 三井物産中国グループ	94
2-14 三菱商事中国グループ	103
2-15 パナソニック中国グループ	109
2-16 ソニー中国グループ	118
2-17 シャープ中国グループ	127
2-18 伊藤忠中国グループ	132
2-19 イオン中国グループ	138
2-20 住友化学中国グループ	144
2-21 住友商事中国グループ	150
2-22 資生堂中国グループ	157
3. 中国社会組織の事例	165
3-1 北京憨福児公益基金会	167
3-2 北京農禾之家コンサルティングサービスセンター	174
3-3 北京市朝陽区金羽翼障害児童芸術回復サービスセンター	179
3-4 北京市朝陽区自然之友環境研究所	186

3-5	北京市石景山区樂齡老年社会工作サービスセンター	196
3-6	北京市西部陽光農村發展基金会	204
3-7	成都朗力養老サービスセンター	210
3-8	広東省麦田教育基金会	217
3-9	罕見病發展中心 (CORD)	225
3-10	南都公益基金会	230
3-11	寧夏青年社会イノベーション發展センター	241
3-12	臺樂融長者介護センター	248
3-13	深圳 (セン) 市壹基金公益基金会	253
3-14	中国慈善連合会	259
3-15	中国貧困扶助基金会	263
3-16	中国国際民間組織協力促進会	271
3-17	中国赤十字基金会	278
3-18	中国青少年發展基金会	284
3-19	中国社会工作連合会企業公民委員	292
3-20	中華社会救助基金会大愛清塵基金	298

1 事例研究概要

事例研究概要

1-1 背景と目標

「企業の社会的責任（CSR）実践における企業と社会との連携調査」における事例研究に基づき、在中日系企業及び社会組織より詳細な資料を入手し、以下のとおり、報告書にまとめた。

1-2 実施方案

1-2-1 研究対象

(1) 標本抽出

本事例研究では、層化抽出法（strategic sampling）と割り当て抽出法（quota sampling）を用いて、22社の在中日系企業と20社の中華人民共和国（以下、「中国」と記す）社会組織を抽出した。

1) 層化抽出法

「層化抽出法」の特徴は、研究者が課題に対する既存の知識と理解に基づき、研究課題に関連性が高く、豊富な情報を提供可能な事例を研究対象に選ぶものである¹。

在中日系企業の事例を選ぶ際に、採用した層化抽出法の具体的な方法は以下のとおり。

- ① 先行研究（学術文献、CSR 研究報告、CSR ランキング、企業 URL など）に基づき、研究課題に関連性が高く、豊富な情報を提供可能な組織を選ぶ。
- ② アンケート調査の結果に基づき、CSR、社会貢献、企業と社会組織との連携などに豊富な実践活動と顕著な特徴のある組織を選ぶ。

中国社会組織の事例を選ぶ際に採用した層化抽出法の具体的な方法は以下のとおりである。

- ① 先行研究（学術文献、組織 URL など）に基づき、研究課題に関連性が高く、豊富な情報を提供可能な組織を選ぶ。

2) 割り当て抽出法

「割り当て抽出法」の主な特徴は研究者が母集団を一定の標準で分類し、各サンプル数のサンプルサイズを確認し、サンプル数ごとに無作為に抽出することである。在中日系企業の抽出の際には、中国に進出した時期や産業分類、登録方式、規模（売上高を指標とする）等を考慮した。中国社会組織事例の抽出の際には、設立時期、主な業務分野、登録方式、規模（収入高を指標とする）等を考慮した。

(2) 在中日系企業事例の基本データ

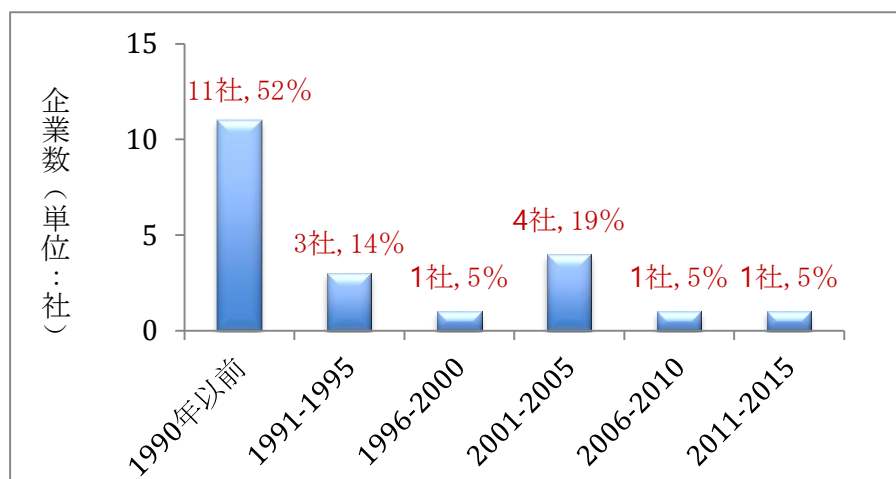
本事例研究に参加した在中日系企業の特徴は以下のとおり。①中国への進出時期が早い、②製造業と小売・御売業を主とする、③中国で登録した企業法人に属する、④大型企業を主とする、⑤中国でCSR業務を展開した時期が早い、⑥ほとんどの企業が社会組織と連携した実績がある。

¹ Mills, Albert J., Gabrielle Durepos, Elden Wiebe (2010) *Encyclopedia of Case Study Research*. Los Angeles: SAGE Publications.

先行研究によると、これらの特徴のある企業は CSR 及び企業と社会組織との連携にリーダー的役割を担う可能性が高い。よって、これら在中日系企業の CSR 及び企業と社会組織との連携にかかわる優秀事例を研究することで、有効な情報を提供できるといえる。

1) 企業が中国に進出した時期

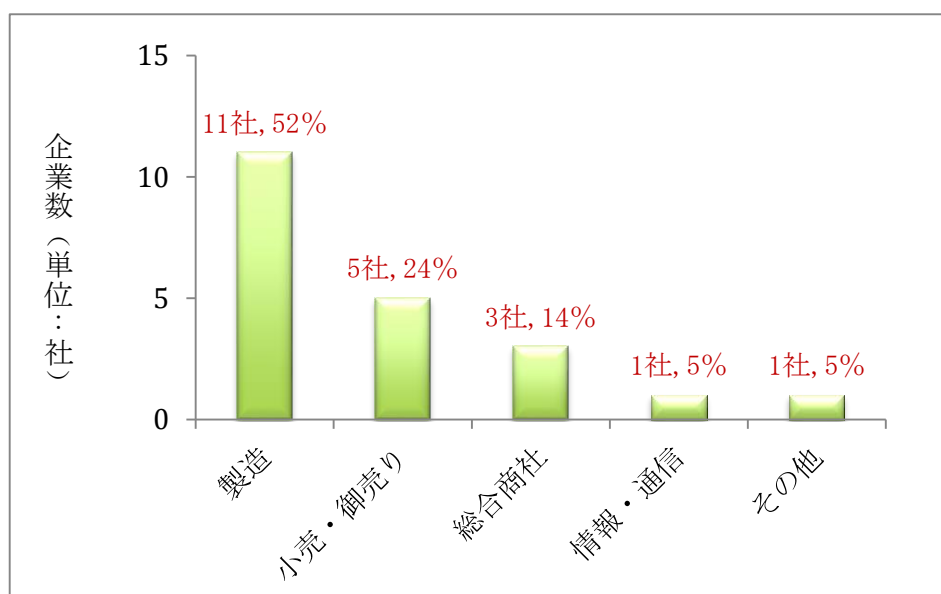
本事例研究調査の対象とした在中日系企業は中国に進出した時期が比較的早いといえる。「1990 年以前」に中国に進出した企業数が 11 社で 52%を占めている。次いで、「1991-1995 年」に中国に進出した企業数が 3 社で 14%を占めている。



図－1 企業が中国に進出した時期

2) 企業の産業分類

企業の所属産業をみると、製造業が 11 社で 52%を占めている。次いで、小売・御売に属する在中日系企業が 5 社で 24%を占めている。そして、総合商社は 3 社で 14%を占めている。



図－2 企業の所属事業

3) 企業の登録方式

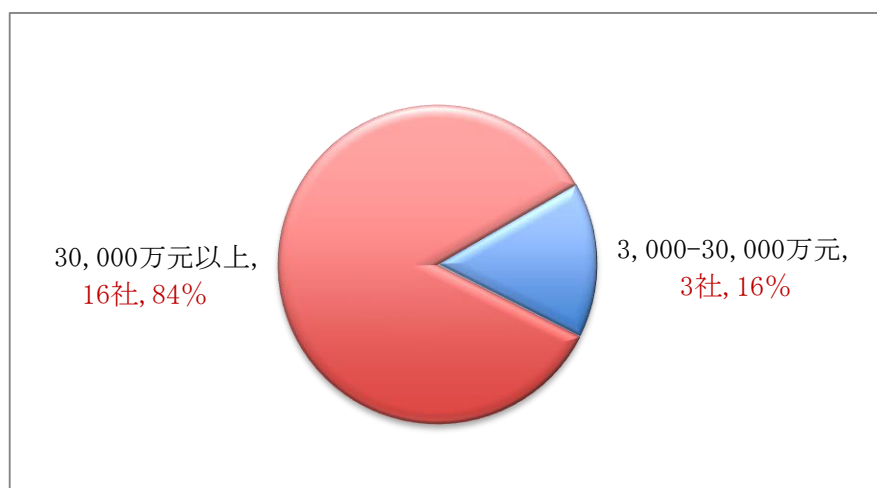
本事例研究調査に参加した在中日系企業はすべて「中国で登録した企業法人」に属する（計 20 社、100%）。



図－3 企業の登録形態

4) 企業の売上高

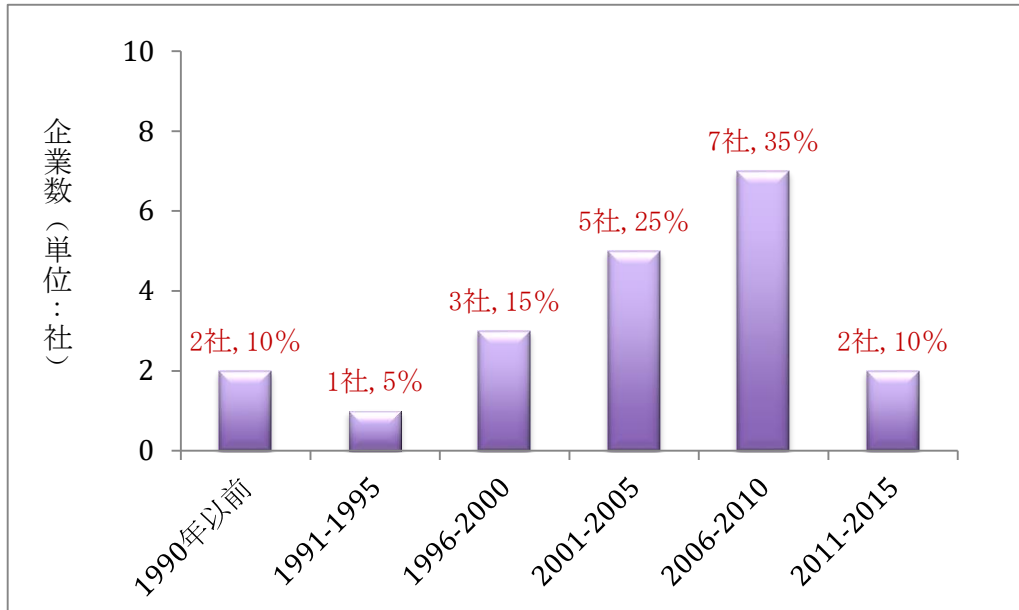
本事例研究調査に参加した在中日系企業の多くは売上高が「30,000 万元（3 億元）以上」の大企業に属する（計 16 社、84%）。次いで、売上高が「3,000-30,000 万元（3,000 万元～3 億元）」となる中型企業は 3 社で、16%を占めている。



図－4 企業の売上高(2014年)

5) 中国における CSR 展開時期

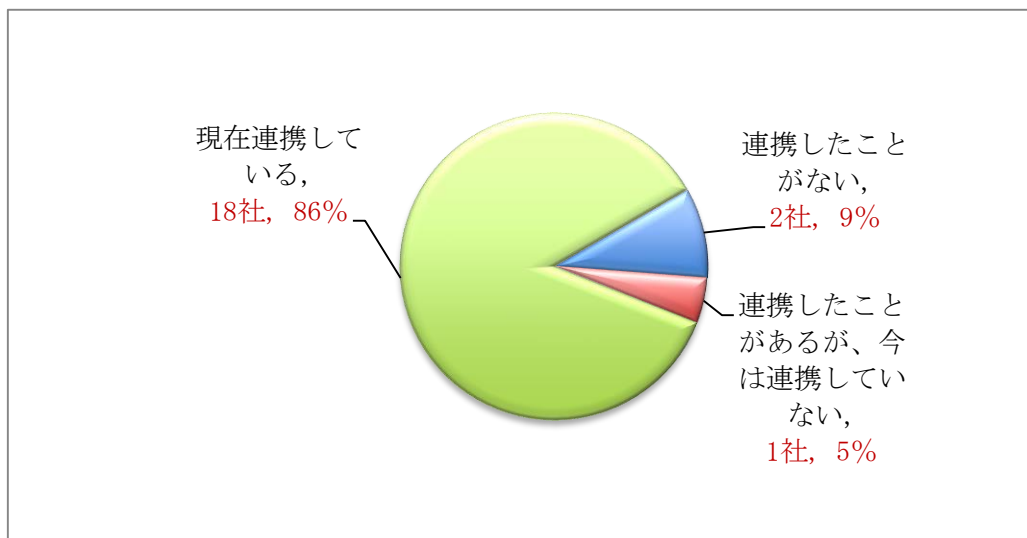
本事例研究調査に参加した日系企業は中国で CSR 業務を展開した時期が比較的早いといえる。2005 年以前に中国で CSR 業務を展開した企業は 11 社で、55%を占めている。この時期、中国国内で CSR への取り組みはまだ発展の初期段階であった。



図－5 中国における CSR 展開時期

6) 企業と社会組織との連携経験

本事例研究調査に参加した在中日系企業のほとんどは、社会組織と連携した実績がある。「現在連携している」と回答した企業は 18 社で 86%を占めており、「連携したことがあるが、今連携していない」と回答した企業は 1 社で 5%を占めている。



図－6 企業と社会組織との連携状況

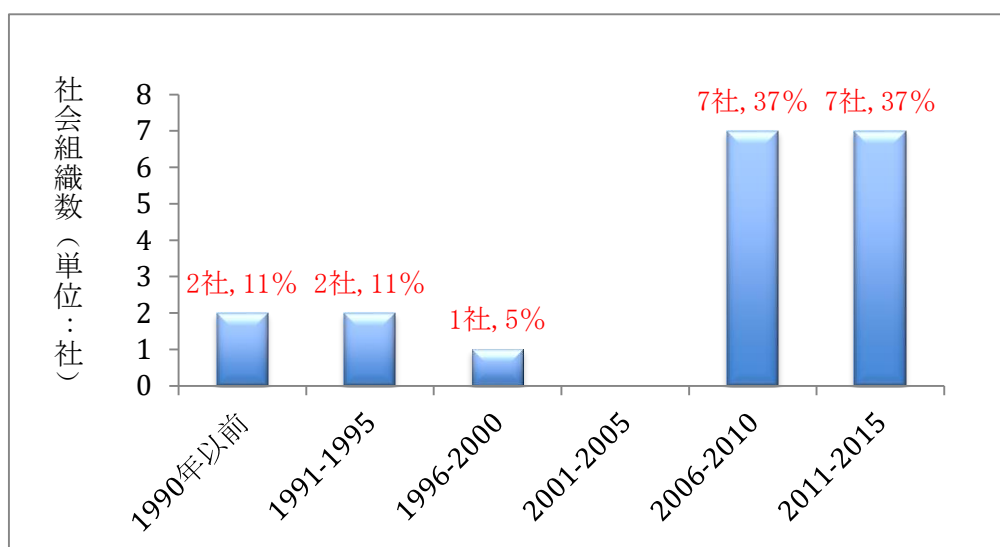
(3) 中国社会組織事例の基本データ

本事例研究に参加した中国社会組織の特徴は以下のとおり。①比較的新しく設立された、②業務分野は多岐にわたる。③登録形態は主に「民間非企業機関」と「基金会」、④中型の組織を主とする、⑤企業と連携した実績のある組織が多い。このような分布は、中国社会の全体的な特徴を反映している。これら社会組織の活動及び社会組織と企業との連携に関

する優秀事例を研究することで、有効な情報を提供できるといえる。

1) 組織の設立時期

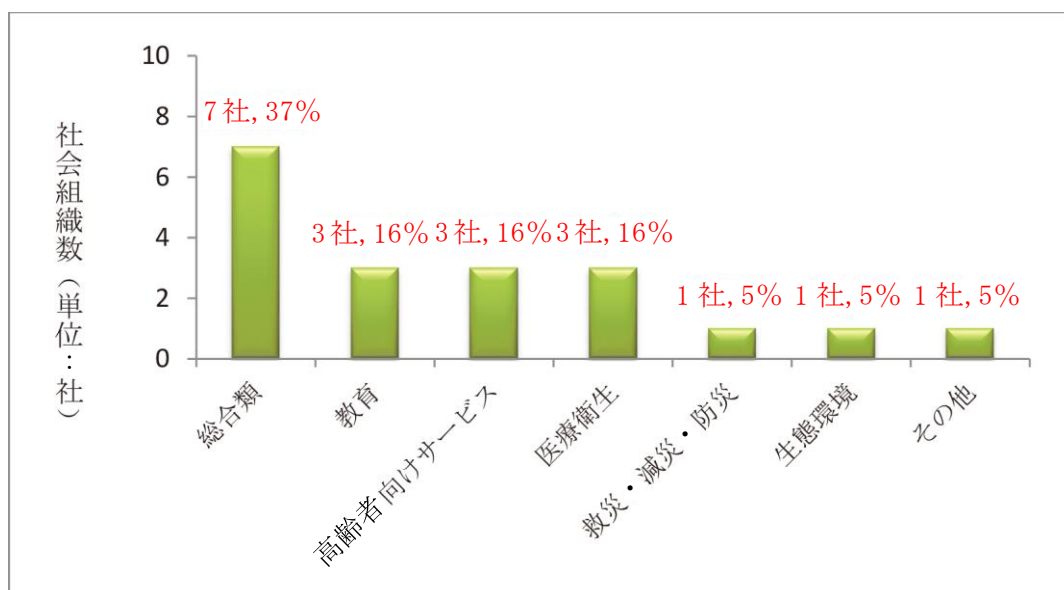
本事例研究に参加した社会組織の多く（74%）は 2006 年以後に設立された組織であり、本アンケート調査のサンプルとほぼ同様の特徴をもつ。これは、中国の社会組織機関がこの 10 年間で活発に発展してきたことを反映している。



図－7 組織の設立時期

2) 組織の主な業務分野

本事例研究に参加した社会組織の業務分野は、教育、高齢者向けサービス、医療衛生、救災・減災・防災、生態環境など多岐にわたる。うち、37%の社会組織は「総合類」に属しており、これは三つ以上の分野にまたがる組織を指す。



図－8 組織の主な作業分野

3) 組織の登録方式

本事例研究に参加した社会組織のなかで、最も多い登録方式は「基金会」(計 8 社、42%) で、次いで「民間非企業機関」(計 7 社、37%) であった。それぞれ資金援助型と運営型の中国社会組織の典型的な登録方式を代表している。

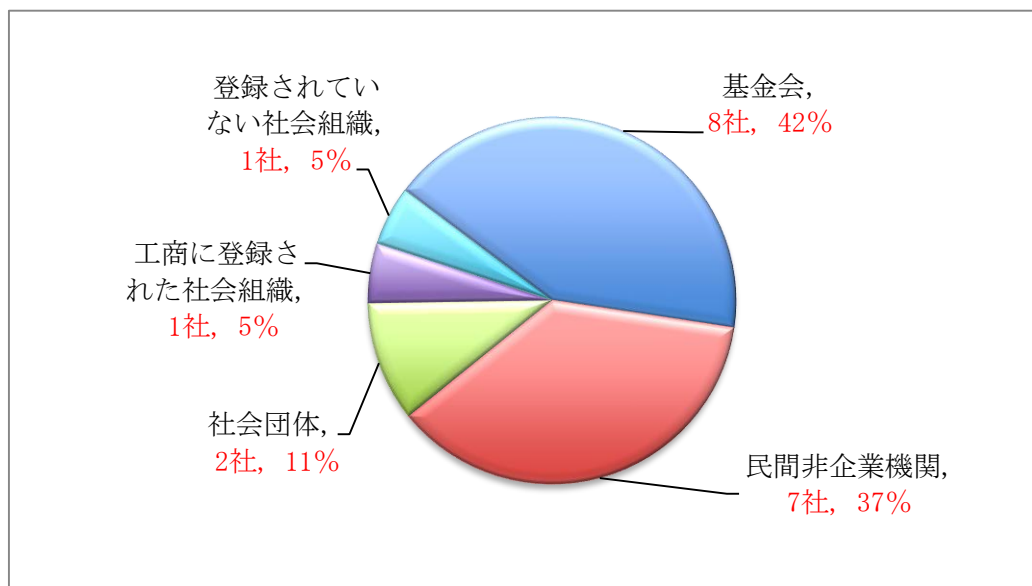


図-9 組織の登録方式

4) 組織の収入高

本事例調査に参加した社会組織は小型、中型、大型、超大型などさまざまな規模類型を含む。うち中型組織の割合が最も大きい(計 10 社、53%)。

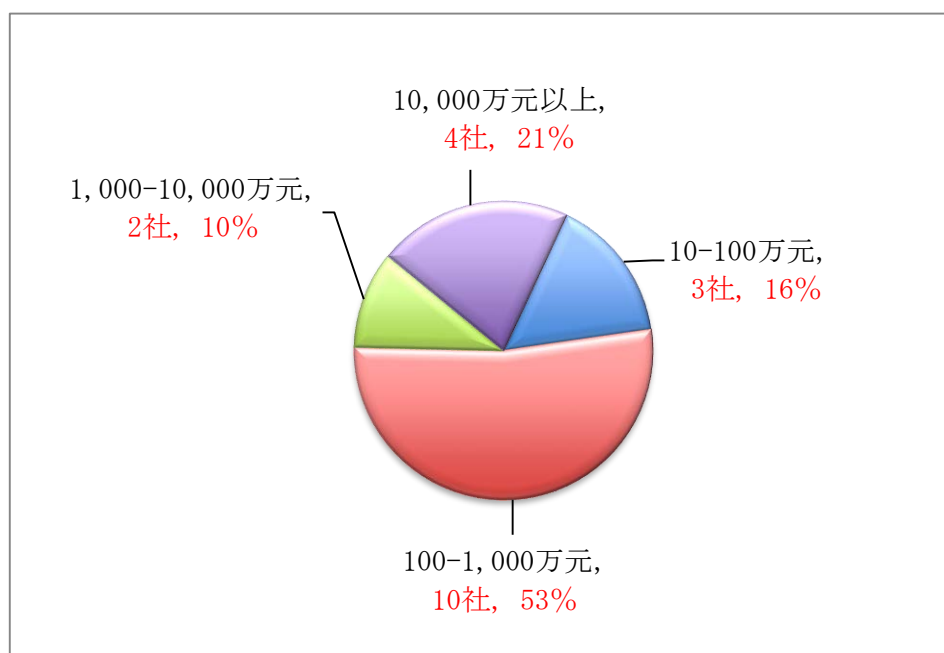


図-10 組織の収入高 (2014年、単位: 万元)

5) 社会組織と企業との連携実績

本事例研究調査に参加した多くの社会組織は企業と連携した実績がある。「現在連携している」と回答した組織は17社で、90%を占めている。「連携したことがあるが、今は連携していない」と回答した組織は1社で、5%を占めている。

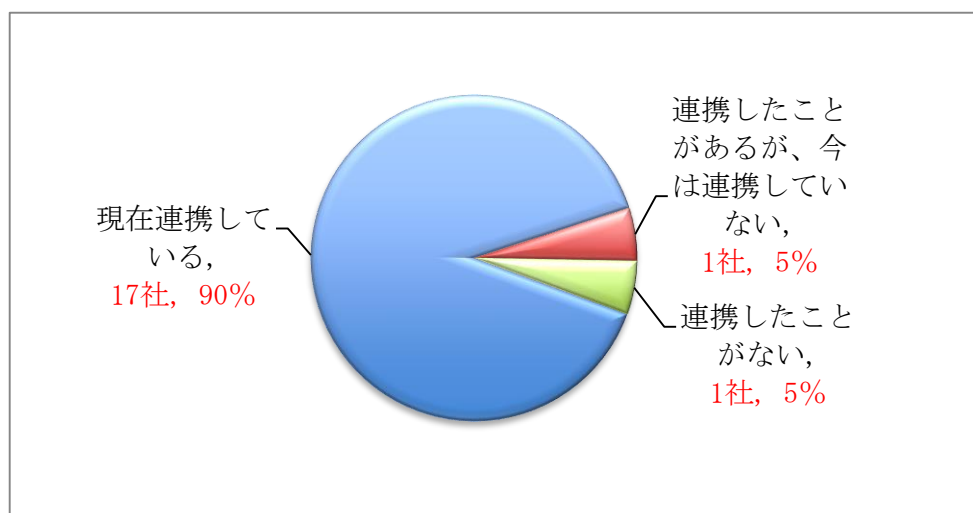


図-11 社会組織と企業との連携状況

1-2-2 研究方法

在中日系企業と中国社会組織との情報収集にあたっては、半構造化インタビュー調査 (semi-structured interview)、既存データ、企業・社会組織による情報収集フォームの作成、という三つの研究方法を用いた。

(1) 半構造化インタビュー

インタビューの前に、インタビュー質問票を準備し、それをインタビュー対象の企業及び社会組織に送信している。インタビュー対象は主に企業のCSR業務担当者、社会組織の担当者及び具体的なプロジェクトの担当者などが含まれる。一つの企業あるいは社会組織に対し、1時間から3時間のインタビューを行った。

(2) 既存データ

インタビューの前に、各企業と社会組織にかかわる既存データを収集した。そのなかには、企業・社会組織の年報、企業CSR報告、社会組織業務報告及び写真・映像データ等が含まれる。その後、インタビューを通して、追加情報を多く入手した。

(3) 企業、社会組織による情報収集フォームの作成

インタビューの際、各企業と社会組織に、記述式の情報収集フォームへの記入を依頼し、ご協力いただいた。在中日系企業のフォームには、CSR活動(2009年～現在)と社会組織との連携(2009年～現在)という二つの内容が含まれている。中国社会組織のフ

フォームも同様に、主なプロジェクト（2009年～現在）と企業との連携（2009年～現在）について記入いただいた。

1-2-3 調査実施期間

実施期間	位置づけ	主な作業内容
2015年3～6月	調査準備期間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査研究の全体の枠組みを検討・確定 2. 調査研究の具体案を確定、主に以下の事項を含む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査サンプリング案の作成 ・ アンケート設計 ・ アンケート調査実施案を作成 3. 起動式（1回目の会議）を実施
2015年7～12月 7～11月 8～11月 9月 11～12月 12月	調査実施期間 データ収集 データ整理 中間報告会 データ分析 最終報告会	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンケート調査 2. アンケートデータをもとにSPSSデータベースを構築 3. 調査の進展状況報告、報告書の主な内容について初歩的な検討を実施 4. 調査データに対して量的分析を実施 5. 調査結果報告、調査報告書の草案を提出、広範囲に意見を収集
2015年12月 ～2016年2月	調査総括期間 調査報告書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告書骨子を提出、広範囲に修正意見を収集 2. 調査報告書初稿の作成 3. 最終調査報告書を提出

1-2-4 定義と専門用語

ステークホルダー	ステークホルダー（Stakeholder）は、組織の意思決定あるいは活動において重要な利益関係を有する個人あるいは団体である。具体的にいうと政府、消費者、顧客、所有者、株主、マスコミ、従業員、サプライヤー、労働組合、地域社会、社会組織などが含まれる。
企業の社会的責任	ISO26000は初めてグローバルスコープで社会的責任を定義したものである。つまり、社会的責任を「組織が透明かつモラルを守った行為で、その意思決定あるいは活動が社会環境に及ぼす影響に対して、責任をとる」と定義した。

<p>企業と社会組織との連携</p>	<p>企業の CSR 実践における企業と社会組織との連携。そうした連携は「社会連携」(social alliances)²ともいわれる。社会連携は営利組織と非営利組織が部門の境を越え、資源と知識と能力とのシェアのために連携関係を構築するものである。企業連携と違い、社会連携は以下の二つの特徴がある。①少なくとも一つの非営利組織をパートナーとして選ぶ、②連携参加者の経済利益目標を実現するほかに、非営利目的(例えば社会福祉を促進する)がある。</p>
<p>社会組織</p>	<p>営利を目的とせず、正式な組織形式があり、非政府体系に属する組織の総称。政府公認の社会組織は、民生機構へ登録している「社会团体」「民間非企業機関」と「基金会」の3種類から成る。ほかに、非営利組織(Non-Profit Organization : NPO)、非政府組織(Non-Governmental Organization : NGO)、第三部門組織(third sector organization)などは類似用語として海外でよく使われている。</p>
<p>社会团体</p>	<p>1998年に中国国务院に公布された『社会团体登録管理条例』によると、「社会团体」は中国公民の自由意志により、結社され、それに、会員の共同意思を実現させるために、規約に沿って、活動を展開する非営利性社会組織である。中国民政部に2015年6月に公布された『2014社会サービス発展統計公報』によると、2014年時点で、中国全土で社会团体数は計31万ある。他のタイプの社会組織と比べると、社会团体は準政府性質をもっている。現在行政編制あるいは事業編制を採用し、国家財政から支給を受け取る社会团体は約200団体あり、うち、中華全国総工会、中国共産主義青年団、中華全国婦女連合会などは特別な政治的地位をもち、社会に広汎的な影響を与えている。</p>

² Berger, I, Cunningham, P, & Drumwright, M. (2004) "Social alliances: company-nonprofit collaboration", California Management Review, 47 (1): 58-90.

民間非企業機関	<p>1998年に中国国務院に公布された『民間非企業機関管理条例』によると、「民間非企業機関」は企業事業団体、社会团体と他の社会力及び公民個体に非国有資本を使い、開催された非営利性社会サービス活動を展開する社会組織である。中国民政部に2015年6月に公布された『2014年社会サービス発展統計公報』によると、2014年時点で、中国全土で民間非企業機関数が29万2,000で、うち、科技サービス系は1万5,110、生態環境系は398、教育系は16万3,681、衛生系は2万3,404、社会サービス系は4万2,244、文科系は1万4,148、体育系は1万1,901、商務サービス系は5,915、宗教系は82、国際及び他の対外組織系は4、他は1万5,308である。</p>
基金会	<p>2004年に中国国務院に公布された『基金会管理条例』によると、「基金会」は自然人、法人あるいは他の組織から寄付された財産を公益事業に使うことをめざし、同本条例の規定によって成立された非営利性法人である。基金会は「公募基金会」（公衆向けの基金会）と「非公募基金会」（公衆以外向けの基金会）という2種類に分けられる。中国民政部に2015年6月に公布された『2014年社会サービス発展統計公報』によると、2014年の年末時点で、中国全土で基金会が計4,117社ある。うち、公募基金会は1,470社、非公募基金会は2,610社、対外基金会は9社、海外基金会代表機関は28社である。</p>

1-2-5 事例集作成にあたっての留意点

1. 本調査では、2009年から2015年現在までの情報を収集することを目的としており、事例集にも「2009年～現在」と明記している。一部の企業からは、2009年より前の活動についても回答があったが、本事例集では2009年以降を採り上げている。
2. 本調査では、「(企業名) 中国グループ」という名称を用いて、事例集を作成し、グループ全体のCSR活動及び社会組織との連携状況を網羅するよう努めた。
3. 中国語版の事例集では、在中日系企業名称及び中国社会組織の名称のピンイン（中国語の読み方）順で事例を並べている。日本語版報告書においても、比較して読むことができるよう、同じ順序で並べていることに留意されたい。

2 在中日系企業の事例

2-1 オリンパス中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>オリンパスは、1919年に創業し、急速な発展を誇る科学技術企業として、「光学技術—デジタル技術」を価値づくりのための基盤とコアコンピタンスにしており、医療・映像・生命科学・産業などを積極的に展開している。</p> <p>2000年、中国におけるあらゆる事業の統括企業としてオリンパス（中国）有限公司を設立した。統括事業分野としては、企画経営戦略、会社統括機能の強化、支店網の統治；新事業、新領域、新業務方式、管理業務の一律執行、及び生命科学、産業製品の販売と関連サービスが挙げられる。</p>
統括会社	オリンパス（中国）有限公司
ウェブサイト	http://cn.olympus.com
設立年月日	2000年
資本金	3,100万ドル
理念と方針	<p>「オリンパスグループは社会の一員として社会と融合し、価値観を共有しながら、事業を通して新しい価値を提案し、人々の健康と幸せな生活を実現していきます。」オリンパスは社会の一員として、人と人の関係を大切に思い、この理念を行動に移すため、社会的価値を実現する考え方を「Social IN（ソーシャル・イン）」と呼び、すべての活動の基本思想としている。</p>

2. CSR理念、方針、推進体制、成果

CSR理念	<p>オリンパスグループは、「Social IN」という経営理念を堅持し、社会のニーズを満たし社会と融合し、事業を通して新たな価値を創造する「価値づくりの企業」として、人々の健康と幸せな生活を実現していく。</p> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: 2em; color: blue; margin-bottom: 20px;">Social IN</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">INtegrity 社会に誠実</p> <p style="color: #0056b3; font-weight: bold;">高い倫理観 人権尊重</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">INnovation 価値の創造</p> <p style="color: #0056b3; font-weight: bold;">革新的価値の提供 活力ある職場環境</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">INvolvement 社会との融合</p> <p style="color: #0056b3; font-weight: bold;">環境との調和 社会への貢献</p> </div> </div> </div>
-------	---

CSR 成果	<ol style="list-style-type: none"> 2011年に、『中国企業報』が主催した中国企業社会責任年会において、オリンパス（中国）有限公司は「2011 中国企業の社会的責任ランキング」に選出され、「2011 社会的責任に優れた企業賞」を受賞した。 2011年に、『精品購買案内』から「2011ME TIME 健康で影響力あるブランド」という年に一度の評価大型キャンペーンで、オリンパスが「健康啓発特別貢献賞」を受賞した。 2012年に、中国公共関係網、新浪公益と行動 CSR が共催する「2012 年最も大衆に影響力をもつ CSR 活動賞」に選出され、オリンパス（中国）有限公司は、「為愛愛胃（愛のため、胃を愛する）」シリーズ活動で「2012 年最も大衆に影響力をもつ CSR 活動賞」を受賞した。 オリンパス（中国）有限公司は、「為愛愛胃（愛のため、胃を愛する）」シリーズ活動で、『健康時報』と清華大学公共研究センターが共同主催した 2012 年度の「健康な中国」盛大な儀式において、「2012 健康な中国の盛大な儀式—公益事業イノベーション賞」を受賞した。 2014年に、オリンパス（中国）有限公司は、2013年に展開した「胃腸健康公益サロン」シリーズ活動で、第3回中国公益節「2013 年度最優秀な公益イノベーション賞」を受賞した。 2015年に、オリンパス（中国）有限公司は、2014年に展開した「胃腸の健康のために一緒に走ろう」をテーマとする胃の配慮月イベントで、第4回中国公益節「2014 年度最優秀な責任あるブランド賞」を受賞した。
---------------	--

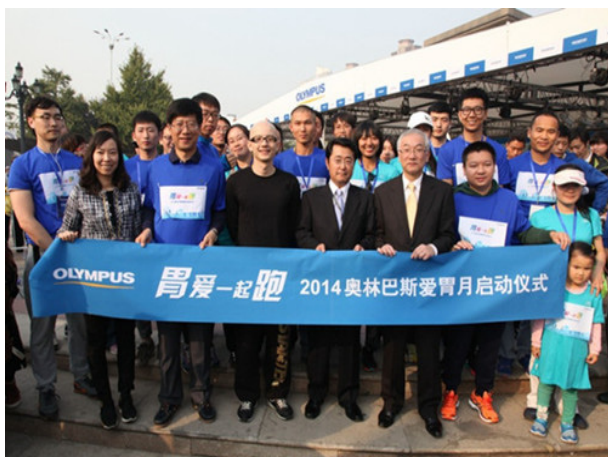
3. CSR 活動(2009年～今まで)

CSR活動1	オリンパス「胃の配慮月」大型公益イベント	活動分野	医療衛生(胃腸の健康)
活動期間	2010～2014年	実施地域	北京
		パートナー	なし
<p>目標：「三早（早期発見、早期診断、早期治療）」理念の浸透を図るために、内視鏡検査へのおそれを払拭し、定期的な検査を行おうとする意識づくりを大衆に指導し、社会における健康価値観の普及に積極的に取り組んでいる。</p> <p>受益者：大衆</p> <p>内容：オリンパスは「胃の配慮月」イベントを2010年から2014年にかけて5年連続で主催し、中国での健康公益事業における重要な力となった。2010年と2011年に、オリンパスは、「胃をいたわる大使」として有名な芸能人である孟庭葦を招き、ファッション業界での胃をいたわる事業への関心を集めた。2012年の「胃の配慮月」の間、「胃をいたわるはがき」が登場し、「胃、お元気？」というオンラインインタビューフォーラムでインターネットの力を初めて導入した。2013年に、胃をいたわる自転車走行宣伝大使の募集をネット上で行い、活動を事前に盛り上げ、起動式の当日は、会場に大型スクリーンを設置し、走行活動をウィチャットで生放送をしたり、AR体感技術を生かしたゲームを設置したりするなど、数多くのイベント企画は胃をいたわる活動に科学技術の要素を導入した。2014年に、オリンパスが前年度のイベントテーマにおける胃の配慮月方式を踏襲し、さらに目新しくて意味深い「胃腸の健</p>			

康のために一緒に走ろう」ミニマラソンを実施し、それを2014胃の配慮月の起動式として、大衆にミニマラソンに参加するよう呼びかけ、胃腸とともに配慮し、健康の大切さを伝えている。

成果：「胃の配慮月」は「胃腸の健康」をもとにした公益宣伝モデルであり、胃腸の健康公益イベントのニューノーマルを果たし、大衆に健康的な思想の種を伝えることで、健康理念を知らず知らずのうちに浸透させ、よい社会公益効果を得た。

関連写真：



CSR活動2	「為愛愛胃（愛のため、胃を愛する）」オリンパス胃腸健康大型模型体験展		活動分野	医療衛生（胃腸の健康）	
活動期間	2011～2012年	実施地域	全国	パートナー	なし
目標： 「三早（早期発見、早期診断、早期治療）」理念の浸透を図るために、内視鏡検査へのおそれを払拭し、定期的な検査を行おうとする意識づくりを大衆に指導し、社会における健康価値観の普及に積極的に取り組んでいる。					
受益者： 大衆					
内容： 2011～2012年に、衛生部専門家委員会の協力と支持の下で、胃腸健康模型体験展の中国国内9カ所での開催を実現した。イベントにおいて、「食道」と「胃」を融合させた大型上部消化管イミテーション模型の体験を登場させ、大型上部消化管イミテーション模型を展示することによって、参加者に間じかに人の消化管内部を体験していただき、病変やガンを近距離で観察することができた。また、マルチメディア技術を利用し、ふだん得られない胃健康知識を活気満々に展示した。オリンパスは胃の健康知識をユニークに融合させたジグソーパズル、イミテーション胃の内視鏡検査などのパズルゲームを設計したり、医療スタッフを招いて無料医療コンサルタントを提供し、市民に自身の健康状況を把握するための生データを理解していただくよう努めている。					
成果： 中国国内9都市で開催し、合計で約2万名が参加し、マスコミ報道数が200余回に上った。大衆に「三早」という胃をいたわる理念を浸透させることで、胃ガンを撲滅し、健やかで楽しい生活を送ることができる。					

関連写真：



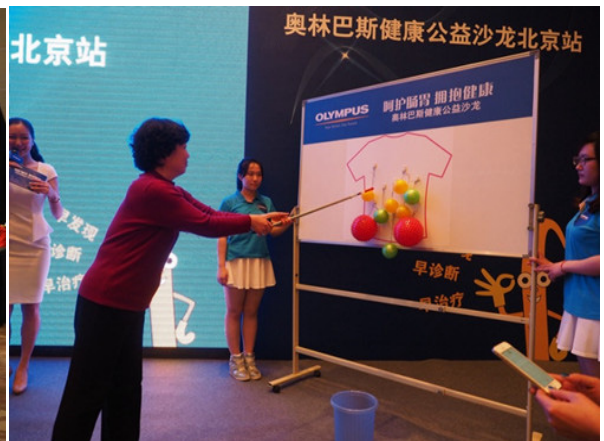
CSR活動3	「胃腸の配慮、健康啓発」オリンパス健康公益サ ロン		活動分野	医療衛生(胃腸 の健康)	
活動期間	2013～2015年	実施地域	全国	パートナー	なし

目標：「三早（早期発見、早期診断、早期治療）」理念の浸透を図るために、内視鏡検査へのおそれを払拭し、定期的な検査を行おうとする意識づくりを大衆に指導し、社会における健康価値観の普及に積極的に取り組んでいる。

受益者：大衆

内容：国内の権威ある専門家を招き、45～60歳の中高年層を対象に中国16都市で基調講演会を開いた。内視鏡を現場展示することで、参加者がゼロ距離でそれを認識した。それによって、内視鏡検査へのおそれの払拭、及び医療分野におけるオリンパスの知名度の向上に役立っている。

関連写真：



4. 社会組織との連携(2009年～今まで)

プロジェクト1	オリンパス奨学金	パートナー	各大病院と医学関係大学		
プロジェクト分野	教育	連携方式	企業慈善(寄付)		
実施地域	全国	プロジェクト期間	2014年	プロジェクト経費	不明

連携内容:

1. 2014年、オリンパスは、C-TEC医療技術研修センターによって、医療スタッフを対象とする研修計画を実施し、「病院管理人員能力強化特訓班」を3回開催し、合計で183名が受けた。
2. オリンパスは、北京大学と連携し、「オリンパス奨学金」プロジェクトを開設し、本科生4名とMBA3名が奨学金をもらった。
3. 生命科学分野においては、オリンパスは、「京師学堂」脳科学シリーズ講演会を実施し、半年間で、複数の認知神経科学領域の有名な科学者を招き、教育を行うことが相次ぎ、脳科学の先端技術関連研究の深化を推進している。
4. また、オリンパスは、解剖学学会、神経学学会、細胞生物学学会などの組織による年度イベントに積極的に参加し、大学との連携による奨学金開設や顕微画像コンテストという形で、中国科学研究スタッフの絶えざる成長を励ましている。

社会組織の収益: オリンパスは、上述の公益活動を通して、中国医療・科学研究レベルの向上及び社会の発展を推進することができた。

関連写真:



プロジェクト2	救災寄付金	パートナー	中国赤十字会		
プロジェクト分野	救災・減災・防災	連携方式	企業慈善(寄付金)		
実施地域	被災地	プロジェクト期間	2008～2010年	プロジェクト経費	数百万円

連携内容: 2008年に汶川地震が起きたとき、オリンパスは被災地に寄付金と設備を合計で390万円寄付した。2010年4月の玉树地震後、オリンパスは、義援金総額50万円を中国赤十字会を通じて、青海省玉树県被災地に寄付し、被災者の救済と被災地の一日も早い復興の一助となることを祈念した。2010年8月甘肅省舟曲県での深刻な土石流被災地に、オリンパスは中国赤十字会を通じて、総額約50万円を寄付した。

2-2 東芝中国グループ

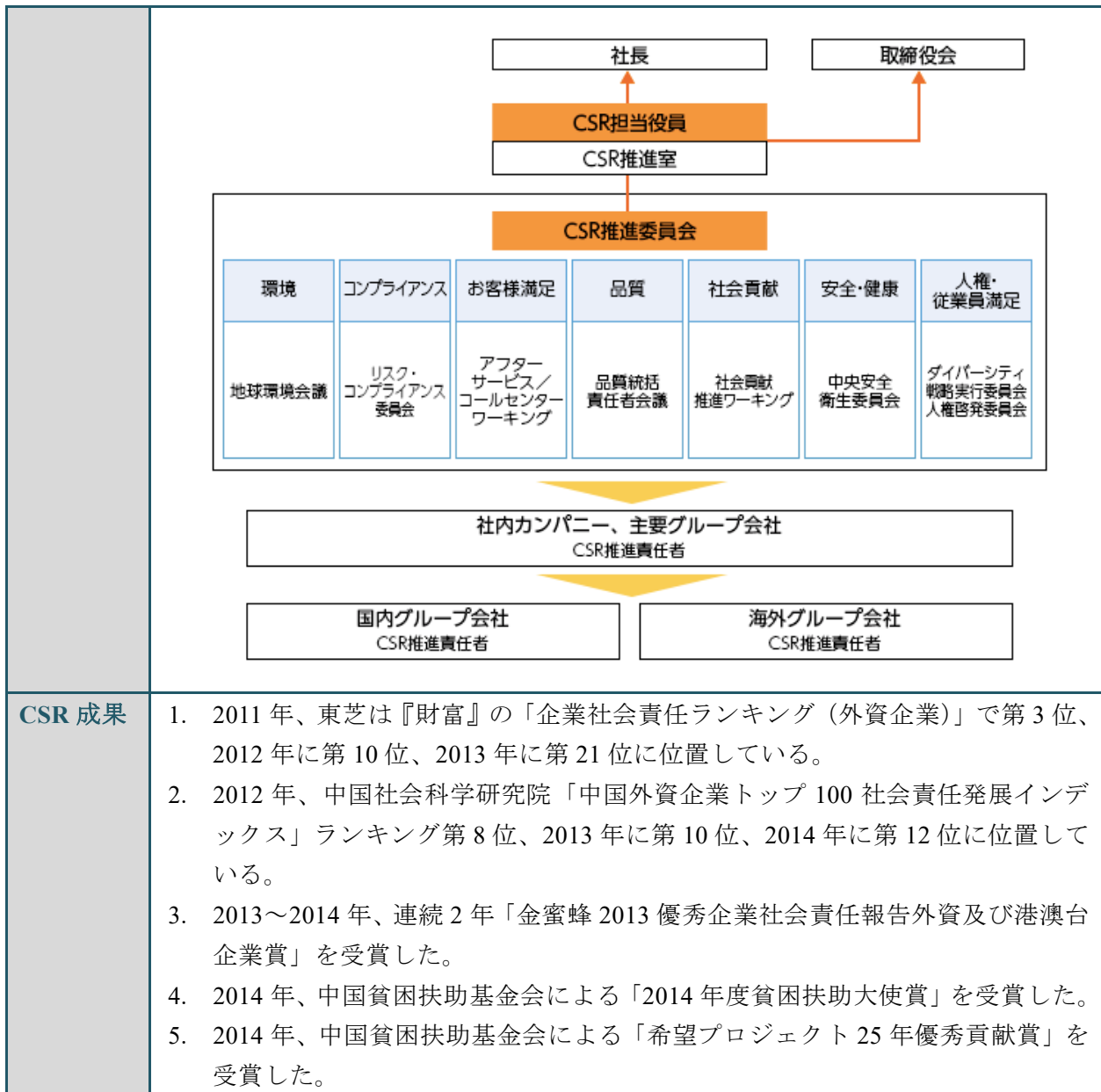
1. 事業概要

会社概要	<p>東芝は全世界で先頭に立つ多分野にわたる会社であり、エネルギー・医療ヘルス・貯蓄等の分野での技術イノベーションに取り組んでいる。1875年に創立して以来、社会に数多くの世界初の製品とサービスを提供してきた。</p> <p>1972年から中国市場に参入して以来、東芝グループは大きな進歩を遂げており、社会インフラ・ビルファシリティ・ヘルスケア・半導体・ライフスタイル等の革新的技術とサービスを提供することにより、人の生活に全面的なサポートを行い、「Human Smart Community by lifenology (スマートコミュニティ・人を第一に考え、科学技術で人類の要求に応える)」を理念とし、安心・安全・快適な社会の実現をめざしている。事業を展開していくとともに、東芝では終始企業の社会的責任を重視し、中国各地で社会貢献活動を積極的に行い、社会の持続可能な発展に寄与している。2014年度までに、東芝は中国で79社の企業を有し、社員は3万人余を超えている。</p>
統括会社	東芝（中国）有限公司
ウェブサイト	http://www.toshiba.com.cn
設立年	1995年
資本金	3,000万ドル
理念と方針	<p>経営理念：東芝グループは、人間尊重を基本として、豊かな価値を創造し、世界の人々の生活・文化に貢献する企業集団をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 人を大切にする。東芝グループは、健全な事業活動を通じて、顧客、株主、従業員をはじめ、すべての人々を大切にする。 ◇ 豊かな価値を創造する。東芝グループは、エレクトロニクスとエネルギーの分野を中心に技術革新を進め、豊かな価値を創造する。 ◇ 社会に貢献する。東芝グループは、より良い地球環境の実現に努め、良き企業市民として、社会の発展に貢献する。 <p>経営方針：「価値創造」「生産性向上」「多様な人材の積極的な育成・活用」「CSR経営（企業の社会的責任）推進」を通して「創造的成長」の実現をめざす。</p>



2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

<p>CSR 方針</p>	<p>東芝グループは「CSR経営の推進」を「創造的成長」を支えるすべての基盤とし、「生命・安全、コンプライアンス」を最優先に、「事業を通じて、グローバルな社会の課題に貢献」していくことで、持続可能な社会の発展に貢献していく。</p> <p style="text-align: center;">「創造的成長」を支えるCSR経営</p>
<p>推進体制</p>	<p>社長をはじめ、CSR 本部長等関係役員で構成する CSR 推進委員会を年 1 回開催し、東芝グループの活動方針を審議・決定する。決定した方針に沿って、地球環境会議、リスク・コンプライアンス委員会などが、各所管のテーマごとに主要評価指標（KPI）を策定し推進している。また毎月、人事・環境・調達など CSR 関連部門が出席するコーポレート CSR 会議を開催し、活動内容を確認している。</p>



3. CSR 活動(2009年～今まで)

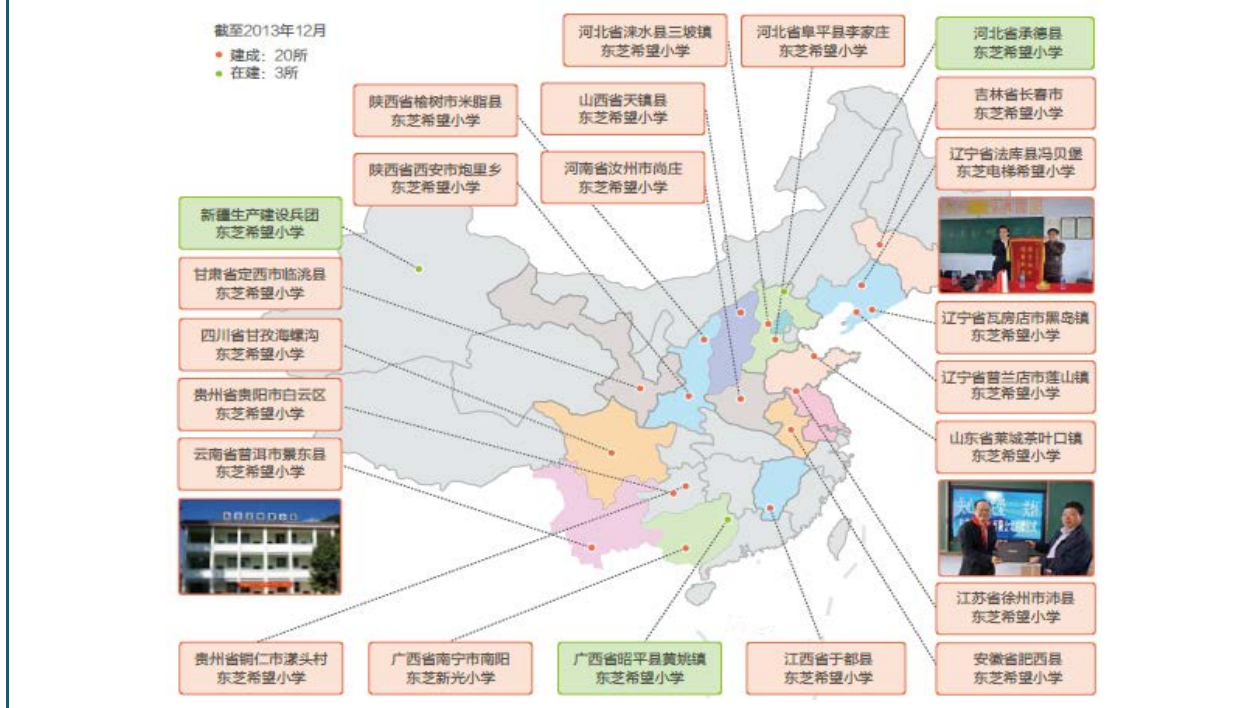
(1) 東芝（中国）株式会社が展開した CSR 活動

CSR 活動 1	東芝希望小学校		活動分野	教育
活動期間	2001年～ 今まで	実施地域	全国	連携パートナー
				中国青少年発展基金会

目標：青少年の基礎教育と健康成長を促進する。
 受益者：中小生
 内容と成果：東芝は2001年から全国各地で希望小学校の建設をスタートし、これまでに合計22校の東芝希望小学校が落成され、現在3校が建設中であり、現地の比較的立ち遅れた教育

環境を劇的に改善した。学校でサッカーキャンプなど多様な活動を開催し、学生はスポーツに興味をもち、素質を全面的に向上することができた。また、東芝は従業員が毎年定期的に希望小学校を訪問し、学生との交流で具体的な需要を確認することができる。また、学校施設環境改善を重視し、寄付・表彰等を通し経済的に豊かではない学生の心を温かめ、困難を抱える学生に援助を提供している。学生が楽しく暮らせ、人生の夢を実現できるようになることが東芝の目標である。

関連写真：



CSR 活動 2	東芝杯・中国師範大学理科師範学生教育技能コンテスト		活動分野	教育
活動期間	2008年～今まで	実施地域	全国	連携パートナー
				教育部
<p>目標：独創的で優秀な中国理科（数学、物理、化学）教師の予備軍を育てる。</p> <p>受益者：中国師範大学の理科師範学生</p> <p>内容：どのように授業で小中学生に科学がそばにあり、科学がもたらす楽しみを体験してもらえるかを考え、独創的な教案を提出し、模擬授業で大会に参加していただく。</p> <p>成果：今まで、計7回開催されており、大会に参加する師範大学は全国で43校に達し、7万5,000人の学生が大会に参加した。</p>				

関連写真：



CSR 活動 3	東芝音楽会			活動分野	その他（文化芸術）
活動期間	2000年～ 今まで	実施地域	北京、大連	連携パートナー	なし

目標：音楽を媒介として、社会文化の伝播及び交流を推進する。

受益者：公衆

内容と成果：チャリティーコンサートである東芝音楽会は2000年から既に11回開催され、2014年に入って初めて北京以外の都市で行われた。出演陣は中国の有名なピアニストである李雲迪のほかに、1980年に結成した東芝ジャズバンドも注目を浴びた。今回の大連音楽会が当バンド初めての海外公演である。

関連写真：



(2) 東芝（中国）株式会社が展開した他の CSR 活動

CSR 活動 1	東芝（中国）グループ植林活動			活動分野	環境
活動期間	不明	実施地域	全国	連携パートナー	なし
<p>目標：2025年までに全世界で150万本の森林を整備し、地球温暖化防止や生物多様性の保護などを通して、地球環境保護に貢献することをめざしている。</p> <p>受益者：環境</p>					

内容と成果：東芝中国グループの各子会社がグループの「地球がより多くの森をもち、大自然への人間の愛を深める」という理念を堅持し貫き、緑化建設に積極的に取り組み、植林活動で所在地の緑を増やす。2013 年年末までに東芝中国グループの各子会社は計約 10 万本の木を植えた。

関連写真：



CSR 活動 2	常州東芝変圧器有限公司無償献血活動		活動分野	医療衛生
活動期間	2003 年～ 今まで	実施地域	常州	連携パートナー なし

目標：無償献血

受益者：公衆

内容と成果：常州東芝変圧器有限公司は 2003 年から現在まで、常州市政府による「無償献血先進集団」の称号を連続受賞し、毎年「世界献血者デー」に無償献血活動を行う常州市唯一の企業である。従業員は既に無償献血を「ファッション」として認め、献血に参加した人は 814 名に達し、総献血量が 18 万 ml を超えた。

関連写真：



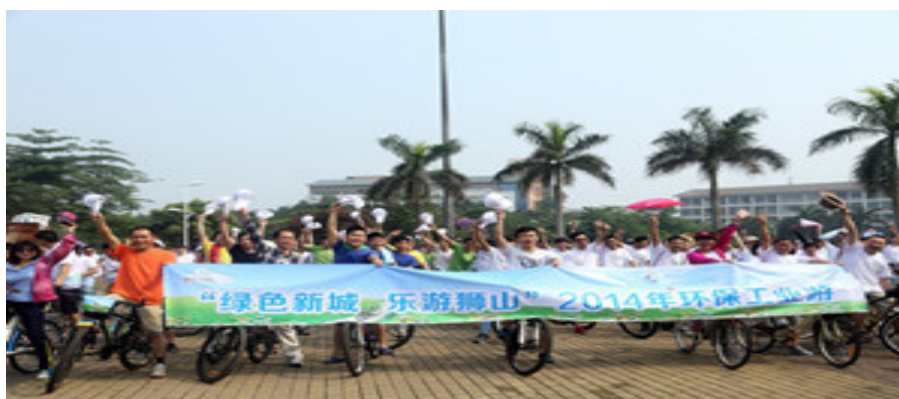
CSR 活動 3	環境保護宣伝月シリーズ活動			活動分野	環境
活動期間	2008 年～ 今まで	実施地域	広州仏山	連携パートナー	なし

目標：従業員と一般市民に呼びかけ環境保護事業を推進する。

受益者：従業員及び一般市民

内容と成果：東芝家用电器製造（南海）有限公司は 2008 年から、毎年定期的に「環境保護は自分から行動する」をテーマとした環境保護大型宣伝月のシリーズ活動を行っている。1 カ月間で、会社内部に「有償ごみ分類コンテスト」「工場清掃」等の活動を行うと同時に、現地環境保護関連部門及び他の会社と連携し「緑色環境保護ライド活動」「使用済み電池回収」「会社近くの住民に環境保護知識を普及」など全面的な活動を行っている。長年にわたり計 2 万名以上の方が上述一連活動に参加し、地元の住民と政府から高い評価を受けている。

関連写真：



4. 社会組織との連携(2009 年～今まで)

プロジェクト 1	東芝杯快樂希望小学校審査		パートナー	中国青少年發展基金会	
プロジェクト分野	教育	連携方式	スポンサーシップ		
実施地域	全国	プロジェクト期間	2013 年	プロジェクト経費	100 万元

連携内容：「学生の楽しい成長を促す」を追求する希望小学校の発展理念をより広げるために、東芝（中国）有限公司は中国青少年發展基金会とともに東芝杯快樂希望小学校コンクールを開催し、モデルとなる事例を通して、希望小学校の発展の段階的な成果を紹介し、新たな学習環境における講師と学生らの勉強・成長に関しての楽しさを伝えた。希望小学校が地元の文化の中心、快樂の中心、公益伝承の中心としての積極的な役割を展示した。選抜は 2013 年 10 月から開催され、社会から大きな注目を集め、各省級青少年發展基金会の推薦と審査委員会の審査により、総計 100 校の希望小学校が「快樂希望小学校」の称号を受賞した。

関連写真：



プロジェクト2	「东芝僑心杯全国少年サッカー大会」 及び「东芝僑心サッカー万里行」		パートナー	華僑公益基金会	
プロジェクト分野	その他（体育活動普及）		連携方式	スポンサーシップ	
実施地域	全国	プロジェクト期間	2012～ 2013年	プロジェクト経費	80万円

連携内容：2012年全国9省（市、区）の12代表チーム、168名が「东芝僑心杯全国少年サッカー大会」に参加した。2012、2013年に「东芝僑心サッカー万里行」活動を全国20校の僑心小学校と貧困小学校で普及した。また、甘肅省白銀市における5校の「僑心小学校」代表にサッカートレーニングウェアとサッカー用品を寄付し、前国家青少年隊主コーチである郭瑞龍と前中国国家女子サッカーチームのリーダーである劉愛玲が「榮茂僑心小学校」の教師と学生にサッカー技術トレーニングと理論知識の指導を提供した。

関連写真：



プロジェクト3	雲南地震被災地支援	パートナー	中国扶貧基金会		
プロジェクト分野	救災減災防災	連携方式	企業慈善		
実施地域	雲南省魯甸	プロジェクト期間	2014年	プロジェクト経費	100万元

連携内容： 2014年、雲南省昭通市魯甸県で地震が起きたあと、東芝グループは被災地の回復を援助するために中国扶貧基金会を通じ100万元を寄付し、地元の校舎総合防災減災システム建設と溪橋再建工事に投入し、被災地ができるだけ早く再建できるように被災者を助けた。

関連写真：



2-3 富士フイルム中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>富士フイルムは1934年に設立し、日本の拠点を含め連結子会社数273社をもつグローバル企業として、世界中の国と地域で事業を展開している。</p> <p>1960年代に、富士フイルムは中国市場に進出し、中国が富士フイルムの最大海外市場のひとつとなった。現在、中国15都市に地域本社、生産企業、販売拠点、物流会社をもっており、デジタルイメージング、イメージング製品、医療システム、印刷製品、光電製品、産業材料などの分野で事業を展開している。</p>
統括会社	富士フイルム（中国）投資有限公司
ウェブサイト	http://www.fujifilm.com.cn
設立年	2001年
資本金	約2億1,340万ドル
理念と方針	<p>企業理念：わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供することにより、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々の生活の質のさらなる向上に寄与する。</p> <p>ビジョン：オープン、フェア、クリアな企業風土と先進・独自の技術の下、勇気ある挑戦により、新たな商品を開発し、新たな価値を創造するリーディングカンパニーであり続ける。</p> <p>企業の行動憲章：①信頼される企業であり続けるために、②社会への責任を果たすために、③あらゆる人権を尊重するために、④地球環境を守るために、⑤社員が生き生きと働くために。</p>

2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

CSR 理念	<p>富士フイルムグループの考えるCSRとは、誠実かつ公正な事業活動を通じて企業理念を实践することにより、社会の持続可能な発展に貢献することである。</p>	
--------	--	--

<p>CSR 方針</p>	
<p>推進体制</p>	<p>富士フィルム（中国）は企業の社会的責任を日常経営方針に納め、富士フィルムの戦略に従い、中国統括事業推進室によって企業間のコミュニケーションを取りながら、事務担当部門主催の中国各関連会社が社会的責任を果たす事業を進めている。</p>
<p>CSR 成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2012年、富士フィルム（中国）投資有限公司は第一財經日報より「中国企業社会責任ランキング優秀実践賞」を受賞 2012年、富士フィルム（中国）投資有限公司は中国公共関係網ネットより「最も影響力がある企業社会責任事件ランキング1位」を受賞 2012年、富士フィルム（中国）投資有限公司が、『WTO 経済導刊』より「金蜜蜂 2011 企業社会的責任ランキング中国リーディング企業」称号を獲得 2013年、富士フィルム（中国）投資有限公司は2013年（第5回）中国優秀企業フォーラム組織委員会より「社会責任模範企業—中国社会责任環境保護賞」を受賞 2013年、富士フィルム光電（深セン）有限公司は中国共産党湖南省委員会統戦部より「湖南武陵山区一対一教育就職援助、同心温暖公益パートナー」称号を獲得

	<p>6. 2013年、富士フイルム（中国）投資有限公司は『ECONOMY 炭商業』雑誌より「中国CSR20フォーラム、コミュニティ智恵実践賞」を受賞</p> <p>7. 2014年、富士フイルム（中国）投資有限公司は中国公益フェスティバル組織委員会より「トップ公益プロジェクト賞」を受賞</p>
--	--

3. CSR活動（2009年～今まで）

(1) 富士フイルム（中国）によるCSR活動

CSR活動1	砂漠緑化活動			活動分野	環境
活動期間	2006年～ 今まで	実施地域	内モンゴル	パートナー	緑化ネットワーク

目標：砂漠緑化に力を注ぎ、より多くの方々が環境保全活動に参加し、実際に体験することで環境保護につながることを願っている。

受益者：環境

内容：富士フイルム労働組合は1998年から毎年、ボランティアを率いて内モンゴルの砂漠で植林活動を行っている。2006年からは中国の従業員も加え、また、社会や業界など有識者に参加するよう会社が積極的に呼びかけている。この活動に力を入れるためには、富士フイルム（中国）、関連会社、富士フイルム労働組合だけでなく、政府、代理店、サプライヤー、マスコミ、お客様を含んだ多種多様のボランティアが苗を植え、手入れや除草などの緑化イベントに取り組んでいる。

成果：この活動は2015年で18年間継続しており、今までに植えた木が1万6,000本以上となった。

関連写真：



CSR活動2	ピンクリボン活動			活動分野	医療衛生
活動期間	2007年～今まで	実施地域	上海・北京等	パートナー	なし

目標：女性の乳ガン検査に対する意識の向上及び関連予防知識の普及を図っている。

受益者：女性

内容：無料のマンモグラフィー検査を提供したり、専門医者を招き乳ガン健康講座を実施した

り、乳ガン健康知識パンフレットを配布したりするなどのイベントを通して、乳ガンの早期発見・診断・治療の大切さ・健康理念を積極的に伝えており、中国で女性が乳ガンから離れるよう、女性の健康と綺麗さに力を注いでいる。

関連写真：



CSR活動3	イノベーションアイデア募集運動			活動分野	従業員
活動期間	2015年	実施地域	富士フイルム社内	パートナー	なし
<p>目標：会社全員の知恵を集め、従業員自主精神を発揮し、会社と従業員のお互いのコミュニケーションと業務効率を促進し、業務イノベーションを加速している。</p> <p>受益者：企業と従業員</p> <p>内容：2015年7月に「イノベーションアイデア」募集運動をスタートし、異なる提案方式を設置することで、従業員に助言提案のためのプラットフォームを提供し、従業員が業務イノベーションに向けた「イノベーションアイデア」を出すよう励ましている。定期的な委員会会議で、提案に対する審査を実施する結果として、現実性ある「イノベーションアイデア」を決定する。</p>					

4. 社会組織との連携(2009年～今まで)

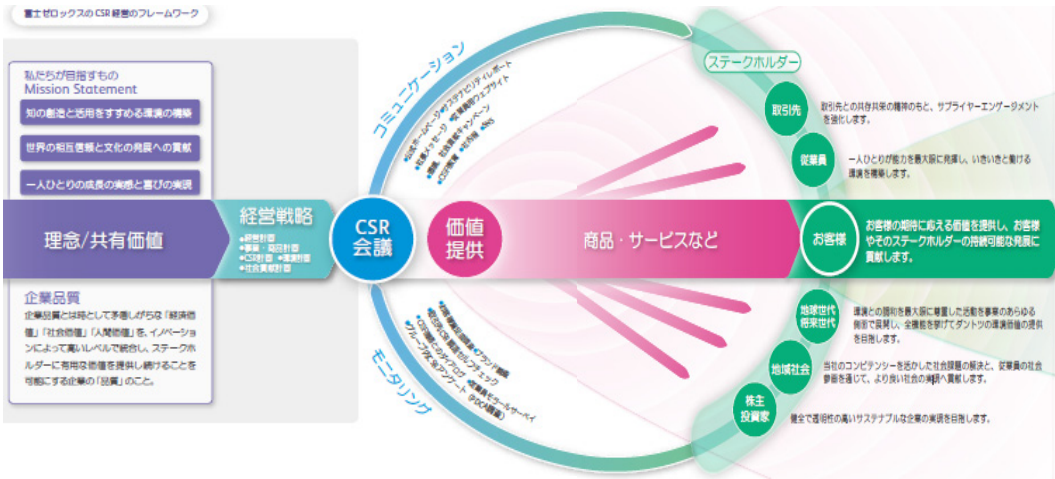
プロジェクト1	富士フイルム砂漠緑化活動		パートナー	緑化ネットワーク	
プロジェクト分野	環境	連携方式	共同課題への取り組み		
実施地域	内モンゴル	プロジェクト期間	2002年～ 今まで	プロジェクト経費	40万円
<p>連携内容：長年にわたり砂漠化予防と原生生態回復に取り組んでいる組織であるNPO「緑化ネットワーク」と富士フイルムは、2002年から連携しながら、中国内モンゴルでの緑化活動を推進している。富士フイルムでは毎年8月にボランティアを集め、内モンゴルの砂漠地区で植林活動を展開し、緑化ネットワークの協力の下で、栽培や、水やり、除草などのシリーズ活動を共同完成し、また、緑化ネットワークにより、後期管理保護を担当することで、樹木の生存率の向上につながった。</p> <p>企業の収益：実質的な収益はなく、環境保護の意識を高めた。</p>					

2-4 富士ゼロックス中国グループ

1. 事業概要

<p>会社概要</p>	<p>富士ゼロックス株式会社は、富士フィルムホールディングス株式会社とゼロックス社が出資して設立した合弁企業である。世界における情報コミュニケーション技術のリーディングカンパニーとして、世界トップレベルの文書管理機器やデジタル印刷システムなどの開発、製造、販売を手がけ、お客様に価値をもたらす文書管理ソリューションとサービスを提供している。アジアパシフィック地域を中心に計 60 社の関連会社がある。</p> <p>1987 年に米ゼロックス社が中国に進出し、上海ゼロックス複写機有限会社を設立して以来、富士ゼロックスは中国に現地法人を 5 社設立した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 18%;"> <p>富士ゼロックスチャイナプロデュアメントサービス (深圳) 創立：2009年 社員数：167人 主に富士ゼロックス及びアジア地域の生産工場に関連サービスを提供しています。</p> </div> <div style="width: 18%;"> <p>富士ゼロックス上海 創立：1987年 社員数：1,937人 主にデジタル複合機、プリンターなどの製品の開発・製造を行っています。</p> </div> <div style="width: 18%;"> <p>富士ゼロックス深圳 創立：1995年 社員数：8,156人 富士ゼロックスで最大の海外生産拠点で、主にプリンター、コピー機、デジタル複合機、カートリッジおよびその関連部品を生産しています。</p> </div> <div style="width: 18%;"> <p>富士ゼロックス (中国) 創立：1995年 社員数：2,322人 主に中国市場向けに、すべてのお客様の異なるニーズに応えられる文書管理商品、ソリューションおよびサービスを提供し、中国の28都市に支社を設けています。</p> </div> <div style="width: 18%;"> <p>富士ゼロックスエコマニュファクチャリング (蘇州) 創立：2006年 社員数：211人 主に回収したプリンター、デジタル複合機およびトナーとドラムなどの富士ゼロックス商品・消耗品のリユース、リサイクルを担当しています。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 調達 研究開発/製造 製造 お客様の使用時 再資源化 </div>
<p>統括会社</p>	<p>富士ゼロックス (中国) 有限公司</p>
<p>ウェブサイト</p>	<p>http://www.fujixerox.com.cn</p>
<p>設立年</p>	<p>1995 年</p>
<p>資本金</p>	<p>3,900 万ドル</p>
<p>理念と方針</p>	<p>私たちがめざすもの (ミッションステートメント) :</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> </div> <p>私たちが大切にすること :</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> </div>

2. CSR 理念、推進体制、成果

<p>CSR 理念</p>	<p>富士ゼロックスは、自分の使命を履行することによって、社会のサステナビリティに貢献する。「CSR は経営そのものである」という考えの下、言行一致でお客様とステークホルダーへの新たな価値を創出し、信頼できる企業となることをめざす。1992 年度に「よい会社構想」を発表し、経営の根幹に据えている。当社は、めざすべきよい会社を「強い」「やさしい」「おもしろい」会社と定義している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">強い</div> <div style="background-color: #4b4b9b; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">やさしい</div> <div style="background-color: #800080; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">おもしろい</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border-radius: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ▪ お客様・株主への貢献 </div> <div style="background-color: #e6e6ff; padding: 10px; border-radius: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 環境への配慮 ▪ 地域社会や国際社会への貢献 </div> <div style="background-color: #ffe6ff; padding: 10px; border-radius: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 創造性を発揮できる職場 ▪ 社員の成長の実感 </div> </div>
<p>推進体制</p>	<p>富士ゼロックス（中国）は「CSR は経営そのもの」の理念を遵守し、CSR 活動を通じて、企業の変革を推進する。ステークホルダーの期待と要求を企業管理に込めて、企業競争力を絶えず向上すると同時に、ステークホルダーに企業の新しい価値を示す。富士ゼロックス中国株式会社は「コミュニケーション」と「モニタリング」を重視し、CSR 活動に対しての評価やフィードバックを管理プロセスのなかに生かせるよう努力する。</p>  <p>■富士ゼロックスのCSR経営のフレームワーク</p> <p>私たちが目指すもの Mission Statement 知の創造と活用をすすめる環境の構築 世界の相互信頼と文化の発展への貢献 一人ひとりの成長の実感と喜びの実現</p> <p>経営戦略 +経営計画 +事業計画 +CSR計画 +地域社会 +社会貢献計画</p> <p>理念/共有価値 企業品質 企業品質とは時として矛盾しがちな「経済価値」「社会価値」「人間価値」を、イノベーションによって高いレベルで統合し、ステークホルダーに有用な価値を提供し続けることを可能にする企業の本質のこと。</p> <p>CSR会議 価値提供 商品・サービスなど</p> <p>コミュニケーション お客様との期待と要求を的確に把握し、迅速な対応を実現するためのコミュニケーションプラットフォームの構築。 +顧客満足度向上 +顧客ロイヤリティ向上 +顧客エンゲージメント向上</p> <p>モニタリング +顧客満足度向上 +顧客ロイヤリティ向上 +顧客エンゲージメント向上 +顧客満足度向上 +顧客ロイヤリティ向上 +顧客エンゲージメント向上</p> <p>ステークホルダー 取引先 取引先との長期的な関係の構築と、サプライヤーエンゲージメントを強化します。 従業員 一人ひとりが能力を最大限に発揮し、いきいきと働く環境を構築します。 お客様 お客様の期待に応える価値を提供し、お客様やそのステークホルダーの持続可能な発展に貢献します。 地球世代 地球世代の期待を最大限に尊重した活動を事業のあらゆる面で実践し、全職員を挙げてトップの推進体制の提供を目標とします。 地域社会 当社のコンピテンシーを活かした社会課題の解決と、従業員の社会参加を通じて、より良い社会の構築へ貢献します。 株主投資家 健全で透明性の高いサステナブルな企業の実現を目標とします。</p>
<p>CSR 成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2011 年、日本能率協会は「GOOD FACTORY CSR 賞」を富士ゼロックス（深セン）に授与した。 2013 年、慧聪印刷網は新星杯 2012 年度印刷「10 大業界推進企業賞」を富士ゼロックス（中国）に授与した。 2013 年、『WTO 経済導刊』は「2012 金蜜蜂 CSR ランキング中国. 金蜜蜂企業」を富士ゼロックス（深セン）に授与した。 2013 年、『商業価値』は「中国企業 CSR 傑出事例トップテン」を富士ゼロックスエコマニュファクチャリング（蘇州）に授与した。

5. 2014年、中国工業経済連合会は「中国工業界で社会的責任を履行する5つ星企業」称号を富士ゼロックスに授与した。
6. 2014年、『WTO 経済導刊』は「金蜜蜂2014優秀企業CSRレポート（外国企業及び香港・台湾企業）」を富士ゼロックス（深セン）に授与した。
7. 2015年、中国公益節組織委員会は「中国公益節」2014年度ベストCSRブランド賞を富士ゼロックス（中国）に授与した。
8. 2015年、『環球時報』は2014年度中国で最も影響力のある企業公益プロジェクトを富士ゼロックスエコマニュファクチャリング（蘇州）に授与した。
9. 2015年、『第一財經周刊』は「中国ビジネスのイノベーション人物50—CSRイノベーター」称号を富士ゼロックス中国事業総代表、徐正剛に授与した。

3. CSR活動(2006年～今まで)

CSR活動1	責任あるサプライチェーンの構築		活動分野	他(サプライチェーン管理)	
活動期間	2007年～今まで	実施地域	全国	パートナー	なし

目標：私たちは、取引先企業を「理念・方針を共有するパートナー」と位置づけ、取引先と「ともに学び、ともに成長し、ともに強くなる」という共栄理念の下、企業倫理・環境保全・人権・労働などの分野について相互に情報を共有し、潜在的なリスクを予防し、共存共栄の信頼関係を構築して、双方の競争力を高めていく。

受益者：取引先

内容と成果：

重点テーマ	2014年のマネジメントの進展	重要な実績
CSR調達	<ul style="list-style-type: none"> • CSR訪問診断の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎訪問47回 • 専門チームによる訪問診断50回
	<ul style="list-style-type: none"> • 取引先でのCSR研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 研修3回、延べ100人以上が参加
	<ul style="list-style-type: none"> • 取引先CSRトップセミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 取引先95社が参加



サプライヤーとともに生産現場の環境管理、労働・人権管理、企業倫理の強化に取り組み、

2014 年度は、CSR 訪問診断を拡大し、基礎訪問を 47 回、専門チームによる訪問を 50 回実施した。また取引先での CSR 研修も 3 社で実施し 100 名の従業員が参加した。

関連写真：



取引先 CSR 研修現場



取引先の交流会現場

CSR 活動 2	環境管理			活動分野	環境
活動期間	2006 年～今まで	実施地域	全国	パートナー	なし

目標：私たちは常に、環境への影響を減らし、環境問題に積極的に取り組む企業のリーダーとなることを考え、そのための努力を続けている。

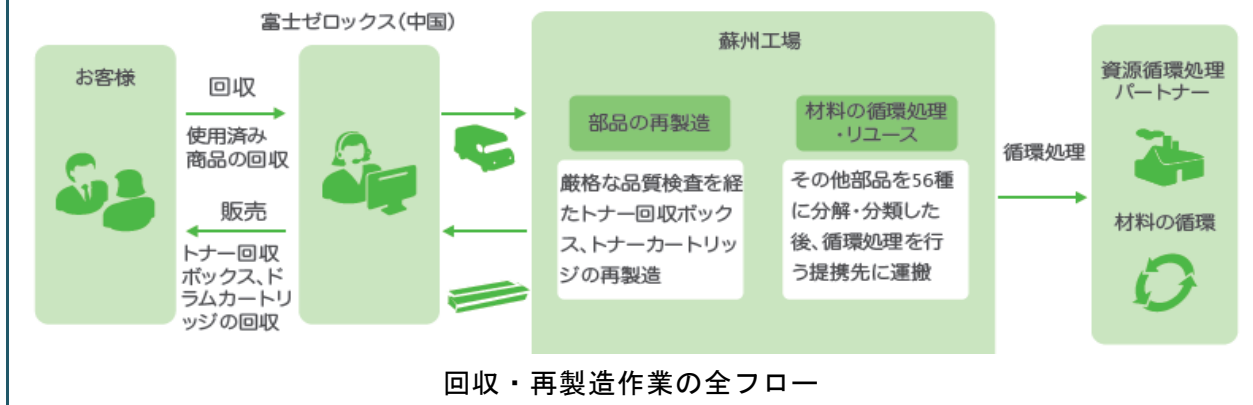
受益者：環境

内容と成果：

重点テーマ	2014年のマネジメントの進展	2014年の重要な成果
資源の持続可能な利用	<ul style="list-style-type: none"> 資源投入関連の第三者機関審査を完了 水資源管理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 節電2,231MWh 節水5,667トン
汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の「廃棄ゼロ」を継続して推進 化学物質管理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 回収された廃棄物のうち再利用されたものが99.5%以上に
気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ISO 50001エネルギーマネジメントシステム認証を取得 第三者機関にCO₂排出量の審査を委託 取引先にCO₂排出削減計画の立案を要求 	<ul style="list-style-type: none"> 政府割当のCO₂排出量を18%下回る
回収と再資源化	<ul style="list-style-type: none"> 代理店とともに回収を行い、回収強化のためのプロモーションを実施 消耗品処理システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> 代理店による消耗品の回収数が2013年の4倍に 新たな資源の利用が12トン減少

私たちは中国全土でお客様の使用済みの消耗品及びプリンター、デジタル複合機の回収と再資源化を行っている。2014 年度は代理店からの消耗品の回収が 2013 年と比べ 4 倍になり、新規資源の利用を 12 t 削減することができた。

関連写真：



CSR活動3	従業員支援プログラム (Employee Assistance Program, EAP)		活動分野	従業員
活動期間	200年～ 今まで	実施地域	深セン	パートナー 深セン当代社会観察研究所 東方心理コンサルティングセンター

目標：従業員の自己実現と企業の成長を有機的に結びつけて、従業員と家族が仕事と生活において遭遇するさまざまな試練に積極的に対応し、健康で楽しい仕事と生活を維持する支援を行っている。

受益者：従業員

内容と成果：

重点テーマ	2014年のマネジメントの進展	2014年の重要な成果
研修と能力開発	<ul style="list-style-type: none"> 従業員研修の継続的な実施 改善活動の継続的な推進 ローテーション制度を継続的に実施 上海交通大学研修センターの研修講座への中間管理職の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 1人あたり平均研修時間20時間 改善事例が10,000件を超える 2014年末までに、83名の中間管理職がポストを交代 研修講座を受講した中間管理職数47人
労働安全衛生と健康	<ul style="list-style-type: none"> 危険予知訓練(KYT)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 81.8%の従業員に安全教育を実施 労働損失日数にかかわる安全上の事故9件
ワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> EAP(Employee Assistance Program: 従業員支援プログラム)を継続して実施 	<ul style="list-style-type: none"> 活動参加者延べ3,661人

深セン工場では2006年から従業員支援プログラム(EAP)を立ち上げ、これまでに3回、大規模な「従業員思いやり活動」を行っている。2014年度にの深セン工場の「従業員思いやり活動」は主に四つの面で行った。

1. コミュニケーション：経営層と初級管理職の交流会を実施し、役員4名が管理職たちと自らの個人的経験と管理経験を共有し、当社が現在直面している課題について討論
2. メンタルヘルス診断：現在世界で広く応用されているメンタルヘルステストを使い、従業員が自分に対するプレッシャーの根源を理解し、現在の仕事でのストレスを評価するなどの支援を行い、専門の診断士を招いて一対一で結果を解説

3. 研修：班・組長向けに「優秀な班・組長の修練」「傑出した班・組長のコミュニケーションテクニック」「サラリーマンの資産運用方法」等の講座を開設、「家庭関係の知恵」「幸せの鍵を探す」「健康な睡眠」等のメンタルヘルスに関する講座を開設
4. プロモーション：毎月、EAPの月報を定期的に発行、全員に「メンタルヘルス手帳」を配付。2日間のEAPプロモーションイベントを実施

関連写真：



宣伝活動の様子



授業員たちが積極的に専門家に意見を求める

2-5 トヨタ自動車中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>トヨタ自動車株式会社は1937年設立以来、創業期、成長期と国際化の三つの段階を経て、世界の自動車製造メーカーのひとつとなった。2014年末までに、トヨタは全世界28の国と地区で54の生産拠点を有し、34万名あまりの社員を抱え、『フォーチュン』の世界500強に総合番付の第9位、自動車製造会社の第2位に位置づけられた。</p> <p>中国におけるトヨタの事業は1964年に発足し、当年トヨタCROWN自動車は初めて中国に輸出された。この半世紀以来、トヨタは中国における完成車、エンジンと自動車関連部品の生産などに活躍してきた。トヨタは第一汽車グループ、広州汽車グループと手を組み、相次いで天津、広州、成都、長春で六つの完成車工場と四つのエンジン工場を成立し、COROLLA HYBRID、LEVIN HEVなど中国で人気を集めている17種類の自動車を世に出した。そのほか、中国におけるトヨタの輸入車の事業も順調に展開されている。2015年12月まで、4種類のトヨタ輸入車及び、7種類のハイブリッド車を含めた20種類のLEXUSブランド自動車を輸入した。トヨタは全国の八つの省と直轄市で、9社の独資会社、15社の合弁会社を有し、4万人余りの社員を抱え、生産・販売・アフターサービスなどで中国自動車産業の発展と自動車市場の成長に積極的に貢献している。</p>
統括会社	トヨタ自動車（中国）投資株式会社
ウェブサイト	http://www.toyota.com.cn
設立年	2001年
資本金	1億1,800ドル
理念と方針	<p>基本理念（1992年1月に設定、1997年4月に修正）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 内外の法及びその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす。 ◇ 各国、各地域の文化、慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する。 ◇ クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む。 ◇ さまざまな分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する。 ◇ 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる。 ◇ グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす。 ◇ 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

トヨタグローバルビジョン：

「笑顔のために、期待を超えて」

- ◇ 人々を安全・安心に運び、心までも動かす。そして、世界中の生活を、社会を豊かにしていく。それが、未来のモビリティ社会をリードする、私たちの想いである。
- ◇ 一人ひとりが高い品質を造りこむこと。常に時代の一步先のイノベーションを追い求めること。地球環境に寄り添う意識をもち続けること。その先に、期待を常に超え、お客様そして地域の笑顔と幸せにつながるトヨタがあると信じている。
- ◇ 「今よりもっとよい方法がある」その改善の精神とともに、トヨタを支えてくださる皆様の声に真摯に耳を傾け、常に自らを改革しながら、高い目標を実現していく。



2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

<p>CSR 方針</p>	<p>「社会・地球の持続可能な発展への貢献」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 私たち（トヨタ自動車株式会社及びその子会社）は、「トヨタ基本理念」に基づき、グローバル企業として、各国・各地域であらゆる事業活動を通じて社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に率先して貢献する。 ◇ 私たちは、国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠意を尽くし誠実な事業活動を行う。 ◇ 私たちは、持続可能な発展のために、以下のとおりすべてのステークホルダーを重視した経営を行い、オープンで公正なコミュニケーションを通じて、ステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努める。 ◇ 私たちは、取引先がこの方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待する。
<p>推進体制</p>	<p>2012年、トヨタ中国は社会貢献部を成立し、企業のCSR事業の推進に取り組みはじめた。2014年12月に、中国における各事業体間の交流を押し進めるため、社会貢献部は「トヨタ中国CSR連絡会」を開催し、社内外の専門家と各事業体の30名余りのCSR代表を招待し、お互いに経験を交換した。</p>
<p>CSR 成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2012年、トヨタ自動車は『南方週末』より「世界トップ500企業在中貢献賞2等賞」を受賞した。 2. 2012年、トヨタ自動車は『信息時報』より「最優秀社会責任企業賞」を受賞した。 3. 2013年、トヨタ自動車の『2013年CSR報告書』が中国社会科学院より「CSR報告四つ星」に認定された。 4. 2013年、トヨタ自動車はメディアの新華ネットが主催した「第6回中国企業社会責任サミット」活動で、「優秀企業賞」を受賞した。 5. 2013年、トヨタ自動車は『中国青年報』より「2013年度風雲自動車企業社会責任賞」を受賞した。 6. 2014年、トヨタ自動車の『2014年度CSR報告書』が中国社会科学院より「CSR報告四つ星半」に認定された。 7. 2014年、トヨタ自動車はメディアの人民ネットより「人民企業社会責任賞年度企業賞」を受賞した。 8. 2014年、トヨタ自動車は中国扶贫基金会より「年度贫困扶助大使」を受賞した。

3. CSR 活動(2009 年～今まで)

(1) トヨタ自動車(中国)投資有限公司の CSR 活動

CSR 活動1	豊寧県植樹造林プロジェクト		活動分野	環境
活動期間	2001 年～ 今まで	実施地域	河北省豊寧県 連携パートナー	河北省林業局、 豊寧県林業局

目標：首都圏の自然環境を保護する。

受益者：環境

内容：2001 年から、トヨタが中国科学院中日科学技術と経済交流協会、河北省林業局、豊寧県林業局、日本 NGO 地球緑化センターと協力して、「21 世紀中国首都圏環境保護模範基地」プロジェクト(豊寧県植林プロジェクト)を展開している。15 年にわたってたゆみなく植林活動に取り組んだ結果として、緑化面積が広がり、自然環境を大きく改善している。草菓と果樹などを栽培することによって、現地の農村地区の経済構造を改善し、良い生態、経済と社会効益をもたらした。そのほか、トヨタは「21 世紀中国首都圏環境緑化交流センター」を設立し、プロジェクト成果を着実に推し進め、他の地域まで広げている。

成果：現在、豊寧県北部の南沙口子地区で、第 5 期のプロジェクトを推し進めている。2015 年の年末まで計 3,900 万円の資金を寄付し、500 万本の木を植え、緑化面積はサッカー場約 4,200 個分の 5 万 m²以上に達した。植樹成功率が 90%以上に達し、かなりの緑化効果がみられる。

関連写真：



CSR 活動 2	中国青少年トヨタ環境保護助成活動			活動分野	環境
活動期間	2005 年～ 今まで	実施地域	全国範囲	連携パートナー	中国共産主義青年団、 中華全国青年連合会

目標：発起したばかりの優秀環境保護プロジェクトに資金援助と交流の場を提供し、孵化器的役割を果たす。

受益者：環境保護チームと個人

内容：2005 年から、中国共産主義青年団、中華全国青年連合会と連携して「中国青少年トヨタ環境保護賞」（その後「中国青少年トヨタ環境保護助成活動」に改名）をスタートした。「中国青少年トヨタ環境保護助成活動」は発起したばかりの優秀な環境保護プロジェクトのために資金援助と交流の場を提供し、孵化器的役割を果たしている。資金援助だけではなく、優秀な環境保護チームと個人のために、海外研修の機会をも提供している。現在は第 3 期を実施中、従来のプロジェクトの位置づけ以外にも、その下のプロジェクト「種の力環境保護行動」の一環として一般市民に省エネの新しい生活様式と環境保護の新しいアイデアを募集し、伝えている。

成果：現在まで、10 年にわたるプロジェクトは計 3,140 余万元を寄付し、約 5,000 万人がこのプロジェクトに参加した。合計で 91 の優秀プロジェクト、130 名の優秀個人とチームを支援した。その下のプロジェクト「種の力環境保護行動」では「青信号を待つ」「お昼消灯 1 時間」「青年環境保護フォーラム」「1 枚の紙の力」などオンラインとオフラインの活動を実施し、市民の関心を集めている。

関連写真：



第 8 回受賞者表彰式



「種の力環境保護行動」オフライン活動

CSR 活動 3	トヨタ助学基金			活動分野	教育
活動期間	2006 年～今まで	実施地域	全国各地	連携パートナー	中国宋慶齡基金会

目標：中国の中西部地区にある学業と品行がともに優れていて、経済的に貧しい大学生の助学

受益者：中国の中西部地区にある経済的に貧しい大学生

内容：2006 年から、中国宋慶齡基金会と連携しトヨタ助学基金プロジェクトを開始し、経済的に貧しい学生の大学に通う夢を助成している。トヨタ助学 PJT は経済的援助だけではなく、販売店の見学、社団エリートトレーニング、サマーキャンプ、工場見学、日本訪問、特色のある就職指導講座などを通して、心の深くから意識まで全面的に成長を助成している。

成果：2006 年設立以来 10 年間、双方は 3 回協議を締結し、中西地域の 26 校の大学の貧困大

学生を助成した。プロジェクトの発足以来、累計でおよそ 7,200 万円を投入し、1,560 人の学生を助成した。

関連写真：



2015 年助学金学生访日交流活动



2015 年助学金学生サマーキャンプ

CSR 活動 4	交通安全体験活動			活動分野	交通安全
活動期間	2007 年～ 今まで	実施地域	全国	連携パートナー	各地交通管理部門、北青 社区報など

目標：一般市民の交通安全意識を高める。

受益者：全国公衆

内容：2007 年から、相次いで上海、広州、天津、北京、成都などで一般公衆向け体験型交通安全教育キャンペーン活動を行った。2014 年以来、地域社会へ深く入り、メディアの北青社区報との提携で北京の大型商業センターで交通安全体験活動を行った。飲酒運転模擬体験、カーブ死角体験、シートベルトの重要性体験など、面白みのある交通安全体験内容を設けた。

成果：2007 年以来、全国の多くの大都市で 5 万人以上が直接参加し、20 万人が影響を受けた。2012 年より、上述の活動は個々の在中国事業体、販売店などが主体になって展開するようになってきている。地域化の活動は現地の消費者、住民との距離を縮めることができる。

関連写真：



シートベルトの重要性体験



死角体験

(2) 中国におけるトヨタ自動車その他の事業体の CSR 活動

CSR活動1	「先輩のトーチ—大学生物品寄付リレー行動」			活動分野	環境
活動時間	2005年～ 今まで	実施地域	全国各地	連携パートナー	大学生環境保護社団

目標：リサイクル、省エネルギー風土の育成

受益者：大学生

内容：2014年、一汽トヨタ自動車販売有限公司は「グリーン空間・大学リーグ」と連携して、全国六大地区の30校の大学で第9回「先輩のトーチ—大学生物品寄付リレー行動」を開催した。一汽トヨタの支援の下で、大学生が自主的に管理し、運営している。大学生環境保護社団は、卒業生が学校を離れる前に、彼らの書籍と資料を収集整理し、来年の新入生に配る。こうして「リサイクル、省エネルギー」の環境保護の理念を着実に実践している。

成果：2005年から現在まで、約59万人がこの活動に直接参加し、65万件の物資を寄付した。

関連写真：



CSR活動2	広汽トヨタ「幸福ハンドル」活動		活動分野	その他（交通安全）	
活動時間	2011年～ 今まで	実施地域	広州	連携パートナー	広州市少年宮、広州市の交通警察局など

目標：青少年と子どもたちへの交通安全知識普及

受益者：青少年

内容：広州の交通安全意識を高めるため、2011年より広汽トヨタは毎年「幸福ハンドル」安全活動を開催し、体験及びインタラクティブゲームを通じて乗客と歩行者、大人と子どもに安全知識の授業を提供してきた。2013年より毎年12月2日「全国交通安全の日」に交通警察とともに大広場とコミュニティで体験活動を実施する。2014年、広汽トヨタは少年宮で「開FUNレッスン」を開設し、自動車専門家が現場教育を通じて、実験で現場の青少年たちに全方位でその自動車安全技術の原理を説明し、交通安全知識を普及した。2015年は従来のCBD広場活動以外に、「安全児童学生体験キャンプ」を開設し、番禺区中心小学での活動などを開催した。また交通警察部門とともに『幸せの町シリーズ絵本』をつくり、無料で配布して子どもの交通安全知識への理解を深めた。

関連写真：



交通安全絵本配布式



安全ポイントコンテスト

4. 社会組織との連携(2009年～今まで)

連携プロジェクト1		清華大学「産業発展と環境治理研究センター」(CIDEG)		連携パートナー		清華大学公共管理学部	
プロジェクト分野		その他(科学研究)		連携方式		企業慈善	
実施地域	北京	プロジェクト期間	2005年～ 今まで	プロジェクト経費	5,400 万元		

連携内容： 2005年3月、公共管理の教学と研究の発展を促進し、優秀人材の育成をサポートするため、清華大学の公共管理学部と連携して、「産業発展と環境治理研究センター」を設立した。現在、プロジェクトの第3期にあたり、これまでに計5,400万元の資金を提供し、「産業発展」「環境治理」と「制度変遷」などの分野をめぐって、研究活動を行っている。

関連写真：



CIDEG 10周年記念活動

連携プロジェクト2	福祉車	連携パートナー	上海市民政局傘下の養老施設、北京英智リハビリ病院など10機構		
プロジェクト分野	社会サービス（高齢者、身体障害者）		連携方式	企業慈善（寄付）	
実施地域	上海、北京	プロジェクト期間	2013年～ 今まで	プロジェクト経費	不明

連携内容：行動の不自由な人と高齢者の外出の便宜を図るために、中国での福祉車事業に取り組んできた。2013年から、上海市民政局傘下の養老施設、北京英智リハビリ病院などの10機構に向けて、HIACEとALPHARD福祉車を無料で提供し、送り迎えに利用している。

関連写真：



2-6 国誉中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>国誉の歴史は1905年の大阪創業にさかのぼり、いまやステーションナリー、ファニチャーを生産、販売し、そして電子商取引や小売業に足を踏み入れ、7,000人近くの従業員をもつ多国籍企業である。</p> <p>国誉文具は日本100年以上の歴史をもつブランド KOKUYO 傘下の文具の開発と販売に力を入れ、上海では生産工場を有し、その傘下の Campus ノートは国内外で長年の人気商品となっている。イージーバイ (Easybuy) オンラインショッピングと自己の物流システムを通じて数万種の文具を中心とするオフィス用具と設備を販売している。</p> <p>国誉家具は People+Design 理念を堅持し、オフィス家具から店舗用荷台までの設計開発、生産販売などの業務を個々のお客様に合わせて、大中国有企業、外資企業などのために設計し、人間性あふれたオフィスとコンビニ、専門店を含む商業スペースをつくり上げる。</p>			
統括会社	国誉（上海）企業管理有限公司			
ウェブサイト	http://www.kokuyo.cn			
設立年	2009年			
資本金	200万ドル			
理念と方針	<p>経営理念：商品を通じて世の中の役に立つ</p> <p>経営方針：</p> <div style="border: 2px solid #0056b3; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">誠心誠意不言実行（「経営の信條」より）</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">誠実</p> <p>理念を共有し、顧客価値に真摯に向き合う</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">自律</p> <p>自ら挑戦し続け、仲間とともに成長する</p> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">徹底</p> <p>価値を“際”まで追求し続け、期待を超える</p> </td> </tr> </table> </div>	<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">誠実</p> <p>理念を共有し、顧客価値に真摯に向き合う</p>	<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">自律</p> <p>自ら挑戦し続け、仲間とともに成長する</p>	<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">徹底</p> <p>価値を“際”まで追求し続け、期待を超える</p>
<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">誠実</p> <p>理念を共有し、顧客価値に真摯に向き合う</p>	<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">自律</p> <p>自ら挑戦し続け、仲間とともに成長する</p>	<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">徹底</p> <p>価値を“際”まで追求し続け、期待を超える</p>		

2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

CSR 方針	<p>国営 CSR 憲章:</p> <p>コクヨグループは、創業以来の「商品を通じて世の中の役に立つ」という企業理念の下、誠実な事業活動を展開し、収益性を高めるとともに、社会から必要とされる企業になる。法令などの遵守はもとより、企業市民としての社会的責任を果たすことにより、お客様・投資家をはじめ、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得し、事業の継続性の維持に努める。</p> <p>お客様</p> <ol style="list-style-type: none">1. すべての商品・サービスにおいて現状に満足することなくより高い安全性と品質を追求し続けていく。2. 新しい商品・サービスを開発し、事業を通じて社会を革新し続ける企業をめざす。 <p>地域社会</p> <ol style="list-style-type: none">1. 国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に寄与するため、地域社会へ積極的に参画し、信頼される「良き企業市民」をめざす。 <p>環境保全</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地球環境問題を、全世界共通の課題と捉え、その解決に全従業員が英知を結集し、全社を挙げて行動を起こす。2. エコプロダクツの開発において、そのライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて、新たな環境技術の導入やグリーン調達に取り組む。3. 低炭素社会にふさわしい働き方や空間を提案することで、ワークスタイルの変革をもたらし、社会全体の環境負荷低減に貢献していく。 <p>企業活動</p> <ol style="list-style-type: none">1. 公正・透明・公平な競争並びに適正な取引を行うとともに、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。2. 取引先様との関係は常に公正であり、また信用される企業であるために、互いに協力し合い、成長していくことをめざす。3. 企業価値を高めることは株主への責務と認識し、社会から信頼される透明かつ健全な企業経営を堅持する。 <p>人権尊重</p> <ol style="list-style-type: none">1. あらゆる企業活動の場面において、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない職場環境をめざすとともに児童労働・強制労働を認めない。2. 従業員一人ひとりの個性や異なる発想・価値を受け入れ、多様な人財がその能力を十分に発揮し、成長できる企業をめざす。
---------------	--

推進体制	<p>コクヨグループでは、関連部門が連携し、グループ全体で CSR 活動を推進している。グループの多方にわたる機能を履行する専門部門として、我々は CSR 環境チームを設置した。戦略の手順に従って CSR を推進するためには、CSR 環境チームは各項の方針を作成・調整し、課題と目標を設定する。また重点課題については、環境委員会、中央安全衛生委員会などを運用し、各専門部署が中心となってグループ全体で組織的に取り組んでいる。全アジアの企業となるためには、私たちはグローバルな CSR 推進体制の構築という課題に直面している。今後も情報発信や対話を通じて、ステークホルダーとの調和を図りながら、社会及びグループの持続的発展を追求していく。</p>
CSR 成果	<p>2015年3月、一般財団法人緑色采购インターネット機構より第1回「采购環境大賞」を受賞した。</p>

3. CSR 活動（2009年～今まで）

CSR 活動1	小さなノート・大きな夢ノート寄付活動	活動分野	教育
活動期間	2014年～今まで	実施地域	甘肅 パートナー 上海衆谷公益

受益者：中国貧困地域の小学生、中学生たち

内容：2014年6月には、従業員たちもわが社の教育への寄付活動に参加できるよう、上海の公益組織一衆谷公益と提携し、北京オフィス、深センオフィス・上海オフィス各拠点から集まった社員5名が、甘肅の三つの小学校へ行った。ノートの寄付だけではなく、当地の学生たちの勉強・生活の状況も尋ねた。そして、彼らと一緒に未来への夢について話した。しっかりと勉強して、チャンスがあったら外の広い世界を見に行ましようと呼んでいた。活動のなかで、我々は当地の子どもたちが実現したい夢を集めた。

成果：活動が終わったあと、私たちは活動の状況をグループの従業員たちに紹介し、子どもたちの小さな夢を実現するために、一緒に努力しようと呼びかけてきた。そして、従業員たちが自費で子どもたちの欲しいものを買って、彼らの手元に送った。そのなかの従業員の一人が二人の小学生の教育費を支援し始めた。

関連写真：



CSR活動2	草の根支援活動		活動分野	教育	
活動期間	2006年～今まで	実施地域	全国	パートナー	在中国日本領事館

受益者：中国貧困地域の小学生、中学生たち

内容：コクヨは、1989年に導入された外務省主催の活動に、2006年より協賛し、毎年中国貧困地域の小学生、中学生にノートを送付している。

成果：2015年末まで、香港・マカオ・台湾地域以外の中国各省市の約400校の約18万人の学生に約54万冊のCampusノートを寄付した。

関連写真：



4. 社会組織との連携(2009年～今まで)

プロジェクト1	農村教師上海1日旅行活動		パートナー	崔永元基金会	
プロジェクト分野	教育	連携方式	企業慈善(寄付)		
実施地域	上海	プロジェクト期間	2015年8月	プロジェクト経費	5,000元

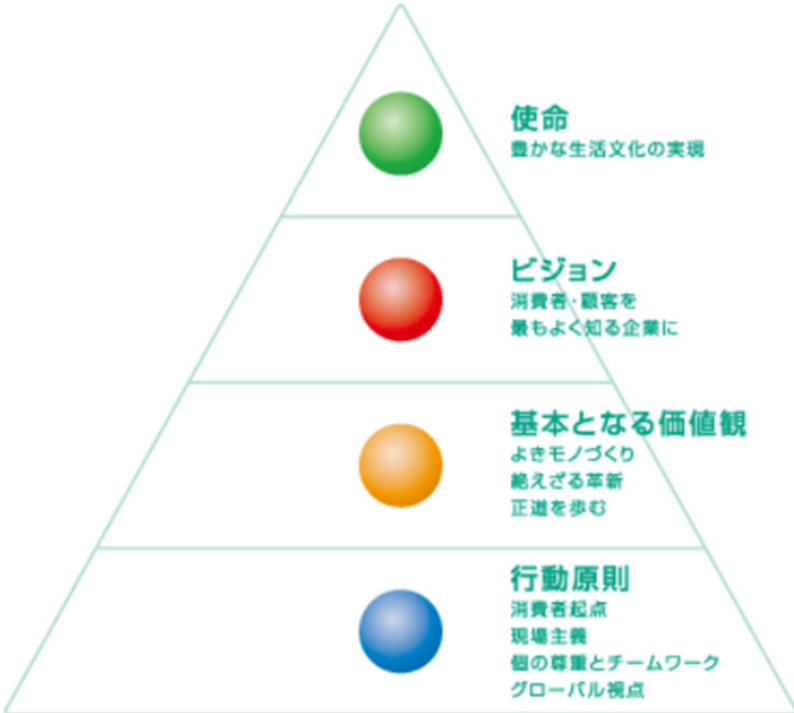
連携内容：崔永元基金会を通して上海参観をした百余名の農村教師に学習用ノートを贈り、貴州から来た2名の教師を週末休日に浦東図書館、万博園、浦東陸家嘴などへ案内し、買い物と上海情緒を体験してもらった。

企業の収益：このような活動を通じて、国営の社員にわが国の農村教育の現状と都市部と農村部の格差への理解を深化させた。ボランティアたちのつながりを深め、国営の企業理念への理解を深めた。そのほか、国営のボランティアたちも公益組織の運営方式が分かるようになり、多くの公益者と知り合いになった。

社会組織の収益：不明

2-7 花王中国グループ

1. 事業概要

<p>会社概要</p>	<p>花王グループは1887年に創業し、従業員数は約3万5,000人で、日本、アジア、欧米などに関連会社を設立した。花王は、消費者や顧客の立場に立った「よきモノづくり」を行うことで、世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献することをめざしている。</p> <p>1993年8月に、中国初となる花王の会社が上海に誕生、長年にわたる心を込めた運営により、花王（中国）は「ビューティケア」「ヒューマンヘルスケア」「ファブリック&ホームケア」の三つの事業分野で、一般消費者に向けたコンシューマープロダクツ事業を展開している。また、「ケミカル」事業分野においては、産業界のニーズにきめ細かく対応した、ケミカル製品を幅広く展開している。</p> <p>花王（中国）傘下では「メリーズ」「ロリエ」「アタック」「ビオレ」など質が良い、広大な消費者にご愛用いただいているブランドを展開している。</p>
<p>統括会社</p>	<p>花王（中国）投資有限会社</p>
<p>ウェブサイト</p>	<p>http://www.kao.com/cn</p>
<p>設立年</p>	<p>2002年</p>
<p>資本金</p>	<p>3億7,548万ドル</p>
<p>理念と方針</p>	<p>経営理念：花王ウェイ</p> 

2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

<p>CSR 理念</p>	<p>花王サステナビリティステートメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 花王グループは、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ（持続可能性）に貢献することを使命としている。現在及び未来において、革新的な製品やサービスを開発することで環境の保全や社会的課題の解決に努め、積極的にコミュニティにかかわり、人々の健やかな暮らしに貢献する。 ◇ これらを実現するため、私たちはこの活動を支える社員一人ひとりに、能力を最大限に発揮できる場を提供し、ステークホルダーとともに健全な企業文化を構築する。 ◇ 私たちは、社会に対する責任を果たし、持続可能な形で事業活動を発展させるために、「エコロジー」「コミュニティ」「カルチャー」に注力していく。
<p>CSR 方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ エコロジー：私たちは、環境宣言の下、事業活動による環境負荷の低減を図るとともに、生物多様性に配慮し、社会全体と連携した環境活動を展開し、地球環境保全に努める。 ◇ コミュニティ：私たちは、事業活動や社会的活動を通じて、世界のコミュニティの課題の解決に貢献していく。 ◇ カルチャー：花王のサステナビリティ活動を実行していくために最も大切な資源は人である。私たちは、ビジネスパートナーとともに誠実な事業活動を行い、社員の多様性を尊重し、常に製品と仕事の改善・改革を推進し、社会に新たな価値をもたらす。
<p>推進体制</p>	<p>重点領域活動の推進体制</p> <p style="text-align: right;">2015年6月25日時点</p>
<p>CSR 成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2011年に、花王（中国）が「2011年度中国年度最優秀な雇用単位トップ100」にノミネートされた。 2. 2011年に、花王（中国）が前程無憂から「2011 最優秀人事革新実践賞」を受賞した。 3. 2012年に、花王（中国）は「サステナビリティ報告書 2012」を発表

3. CSR 活動(2009年～今まで)

CSR活動1	「清潔節水中国行、一家一年一万升」節水キャンペーン		活動分野	環境(節水)
活動期間	2012年～ 今まで	実施地域	北京、上海、広州、成都、西安など各都市	パートナー 環境保護部宣伝教育中心

目標：人々の節水意識を呼び覚まし、生活で自分から節水し、よりグリーンな生活をめざし、中国水資源の保護と持続的発展の可能性に貢献

受益者：一般市民

内容：中国における深刻な社会問題のひとつになっている水資源の不足に着目し、2012年から毎年、世界水の日に合わせて、環境保護部宣伝教育中心との共催により、「清潔節水中国行、一家一年一万升」節水キャンペーンを実施し、連続4年北京、上海、広州、成都などで行った。さまざまな宣伝形式と展示で人々の節水意識を呼び覚まし、生活で自分から節水し、よりグリーンな生活をめざし、中国水資源の保護と持続的発展の実現に貢献している。

2015年には今までの宣伝を基礎に、全国約50校の大学で「清潔節水青春行」大学節水活動と節水テーマコンテストを開催した。活動を通して、大学生に水資源保護、環境保護に目を向け、自分から節水し、豊かな暮らしをつくることをめざした。

成果：2012～2014年の3年間で約23万人が参加し、約7万世帯に節水理念を伝えることができた。2015年には約50校の大学で活動を行い、約30万人の参加者と学生が参加した。

関連写真：



CSR活動2	商品寄付		活動分野	貧困削減
活動期間	2006年～今まで	実施地域	上海	パートナー 上海市慈善基金会

目標：貧困大学生と市民の生活改善

受益者：上海及び上海近郊の貧困大学生

内容：2006年から2015年まで、既に10年連続で上海市慈善基金会を通じて、上海市及び上海市近郊の苦学生、貧困家庭の援助のため、自社製品(日用品)の定期寄付を行っている。

関連写真：



CSR活動3	花王ピンクリボン活動		活動分野	医療衛生	
活動期間	2009年～今まで	実施地域	全国	パートナー	なし
<p>目標：乳ガンの早期発見を呼びかけ、「健康で、美しい毎日」を実現</p> <p>受益者：女性</p> <p>内容：花王グループは2007年から「花王グループピンクリボン活動」を行っている。2009年から上海、香港及び台湾地区の同ブランドのカウンターも参加し、活動期間中は、花王（中国）傘下のSOFINA（ソフィーナ）及びカネボウ美容顧問がピンクリボンバッジを身につけ、化粧品カウンターでお客様に乳ガン早期発見のパンフレットを配り、乳ガン知識と自己検診の方法をお伝えしている。</p> <p>成果：「ピンクリボン活動」を通して、多くの消費者が自分の健康に関心をもち、乳ガンを勉強し、自己検診をはじめ、周りの家族、友人そして花（中国）と自分の経験を共有するようになった。</p>					

関連写真：



4. 社会組織との連携（2009年～今まで）

プロジェクト1	太湖環境保護活動		パートナー	中華環境保護基金会	
プロジェクト分野	環境	連携方式	企業慈善		
実施地域	江蘇省	プロジェクト期間	2010年	プロジェクト経費	30万円

連携内容：中国各地域の水資源プロジェクト事業支援のため、中華環境保護基金会へ30万円の寄付を行った。合わせて江蘇省の太湖で社員代表者たちが自転車に乗り、太湖保護を訴える公益活動を実施した。

企業の収益：地域環境保護を支援し、企業の社会責任を果たす。

社会組織の収益：環境保護を行い、企業の影響力と知名度を上げることができた。

関連写真：



プロジェクト2	Enactus 中国プロジェクト支援		パートナー	Enactus China	
プロジェクト分野	教育	連携方式	企業スポンサーシップ		
実施地域	北京、上海、 広州など	プロジェクト期間	2011年～ 今まで	プロジェクト経費	不明

連携内容：NPO組織のEnactus（Entrepreneurial Action Us）の一協賛企業として、大学生の潜在能力を見出し、将来の事業家またはビジネスリーダーをめざす大学生たちを支援している。主要な活動としては、「大学生たちが中国におけるさまざまな社会問題に対して、その問題解決をするための事業提案をするコンテスト」が毎年開催されており、このコンテストの審査員及びオブザーバーとして花王の社員を派遣し、学生たちとの交流を図っている。

企業の収益：大学生のイノベーションを支援し、企業の社会責任を果たし、大学での知名度と評価を向上

社会組織の収益：大学生を対象とするイノベーションコンテストを開催し、学生の夢の手助けと同時に組織の影響力と知名度を高める。

関連写真：



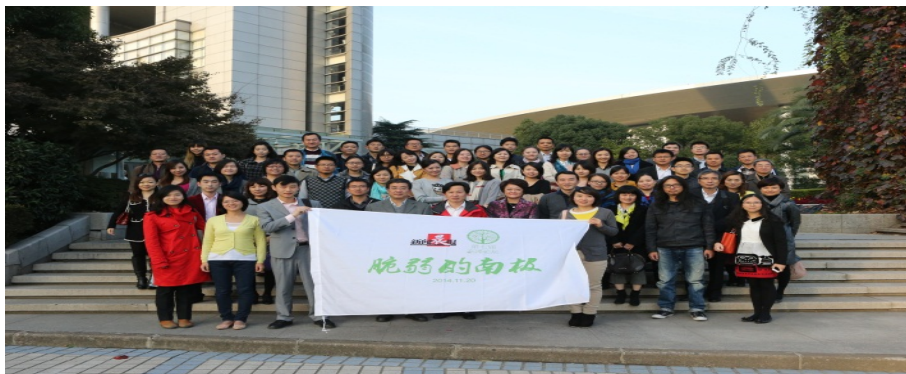
プロジェクト3	緑色公民クラブ		パートナー	上海晨报	
プロジェクト分野	環境	連携方式	環境保護活動		
実施地域	上海	プロジェクト期間	2010～ 2014年	プロジェクト経費	不明

連携内容：花王は2010年12月から上海の主流メディア（上海晨报）が主催する環境保護フォーラムに「緑色公民クラブ」の会員として参加、その後、花王は毎年同フォーラムに参加し、環境保護に関して会員各社と討論、実践している。

企業の収益：メディアの環境保護活動の支援をし、社会責任を果たす。

社会組織の収益：多くの企業と機構が環境保護活動に参加することを推進し、影響力を高め、メディアとしての社会貢献をする。

関連写真：



2-8 キヤノン在中国グループ

1. 事業概要

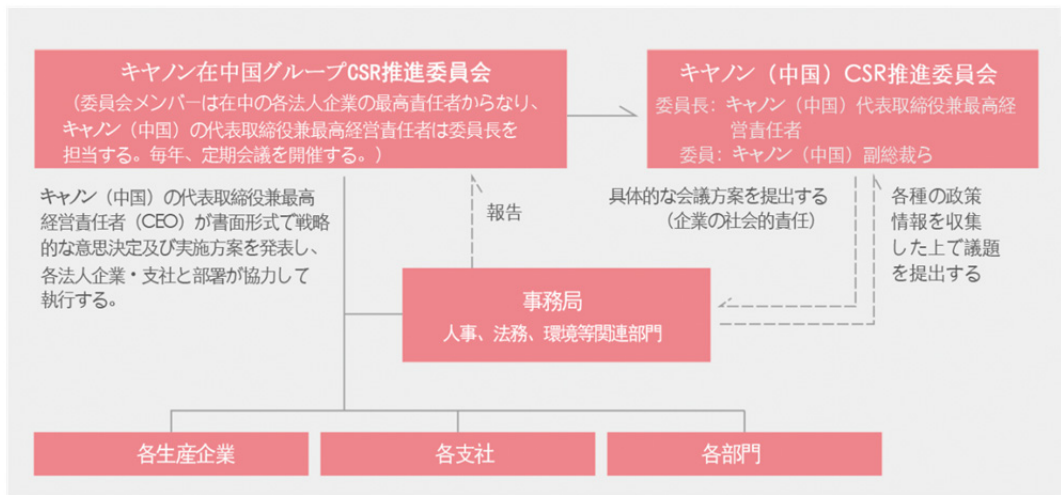
<p>会社概要</p>	<p>キヤノンは1937年創業以来、「共生」の企業理念を堅持し、世界一流の製品をつくることを目標とし、多元化とグローバル化の発展を続けている。現在、光学技術をコアとし、イメージングシステム製品、オフィス製品と産業設備などを含むさまざまな分野で事業を展開している。東京に位置するグループ本部はアメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアの各地域の本部と密接につながり、グローバル化と本土化を合わせた経営体制を築き上げている。</p> <p>キヤノンの中国での発展は20世紀70年代末から始まった。現在、大連、珠海、中山、蘇州などで生産、研究開発、販売を含めた12社の法人機関がある。中国における投資総額は累計で10億ドル以上となり、約4万人の従業員がいる。1997年3月6日、キヤノン（中国）株式会社が成立して、中国市場で全面的に販売事業の展開を始めた。30年余の発展を経て、今全国16カ所の支店、16カ所の事務所、8カ所の交流スペース、11カ所の修理センター、9カ所の便利サービスセンター、及び12社の在中国関連会社を有している。</p> <p>光学技術をコアとして、キヤノンは自社独創のイメージング技術を製品の研究開発のなかに生かして、イメージングシステム製品、オフィス製品と産業設備の三大分野を積極的に開拓している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キヤノンは業界においても先端的なイメージング技術をもっているため、先端的な光学技術をカメラ、プリンター、投影図・ラジオテレビ器材などに生かし、高画質の静態及び動態の映像で生活の美しい瞬間を記録し、新たな映像世界を提供している。 2. キヤノンは先進的で豊富なオフィス設備生産ラインを有し、ネットワーク化、智能化技術によってお客様の仕事効率を高め、安全性が高く、環境負担が小さく、コストが低いビジネスソリューションを提供し、お客様に素早く、気軽で、効率の高い、安全で環境にやさしい仕事体験をもたらす。
<p>統括会社</p>	<p>キヤノン（中国）有限公司</p>
<p>ウェブサイト</p>	<p>http://www.canon.com.cn</p>
<p>設立年</p>	<p>1997年</p>
<p>資本金</p>	<p>5,605万ドル</p>
<p>理念と方針</p>	<p>経営理念：企業のDNA。70年あまりの発展を経て、創業以来代々受け継ぐ企業のDNA——「人間尊重」「技術優先」「進取の気性」の精神を堅持する。</p> <p>経営方針：[自発] 何事にも自ら進んで積極的に行う。[自治] 自分自身を管理する。[自覚] 自分が置かれている立場・役割・状況をよく認識する。</p> <p>ビジョン：世界で親しまれ、尊敬される、真のエクセレントカンパニーをめざし、キヤノンは1996年から中長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想」を推進してきた。</p>

2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

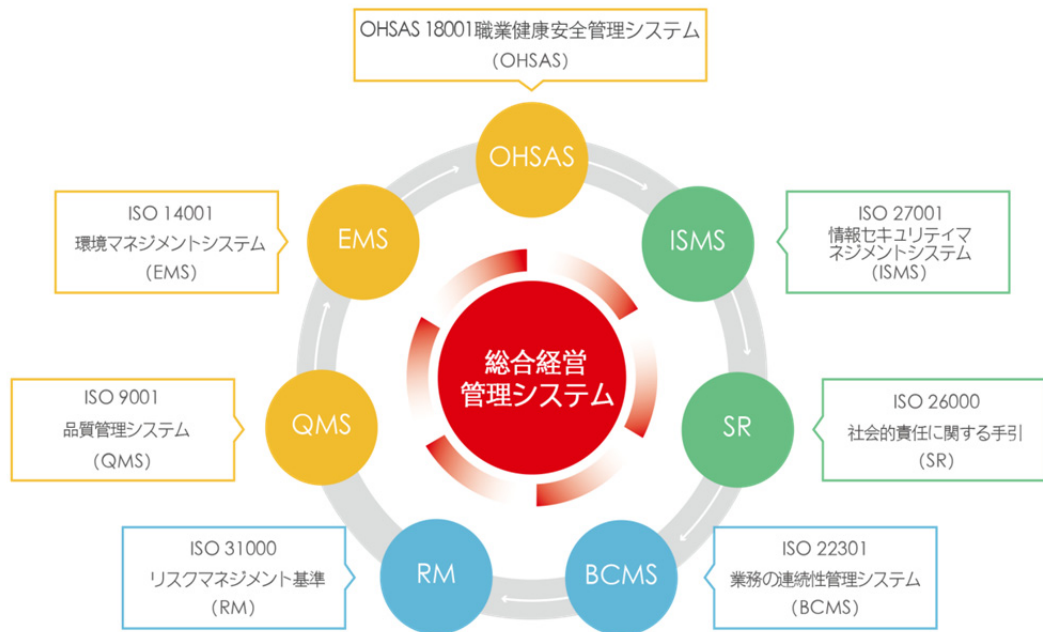
<p>CSR 理念</p>	<p>キャノンの企業理念は、「共生」である。私たちは、この理念の下で文化、習慣、言語、民族などの違いを問わず、すべての人類が末永く共に生き、共に働き、幸せに暮らしていける社会をめざす。つまり企業は当地の文化を尊重するだけではなく、当地の人民・環境・コミュニティと睦まじく付き合う必要もある。</p>
<p>CSR 方針</p>	<p>2012年に「キャノングループCSR活動方針」を定めた：</p> <p>よき企業市民として、より良い社会の実現に貢献する。キャノングループは、企業活動が社会全体の発展に支えられていることを認識し、健全で公正な事業活動により自らの成長をめざすとともに、よき企業市民としてより良い社会の実現に貢献する。そのため、キャノンのもつ「高度な技術力」「グローバルな事業展開」「専門性のある多様な人材」を有効に活用し、国際社会と地域社会のなかでCSR活動を推進する。</p> <p>キャノン（中国）2020持続可能発展計画：</p> <div style="text-align: center;"> </div>

推進体制

CSR 組織システム :



キャノン（中国）総合経営管理システム :



CSR 成果

< 2014～2015 年度 >

1. 2014年1月、人民網による第8回「人民企業社会責任優秀賞」を受賞した。
2. 2014年7月、中国社会科学院の評価で『キャノン（中国）企業 CSR レポート 2013—2014』は四つ星半の評価を受けた。
3. 2014年7月、『南方週末』による「ベスト CSR 事例賞」と「ベスト CSR ティーム賞」を受賞した。
4. 2014年10月、前程無憂による「2014 中国ベスト人的資源管理模範企業」「ベスト人的資源戦略模範企業」「社員の好雇主」など名誉称号を頂いた。

5. 2014年11月、中国社会科学院が発表した『中国企業CSR研究レポート（青書）』によると、キヤノンは外資企業CSR発展指数第5位、電子業界第6位、中国トップ300の第40位だった。
6. 2014年11月、民政部、中国企業市民委員会による「優秀企業市民」「中国優秀企業市民トップ50」「2014年度中国企業市民優秀プロジェクト」「2014年度中国企業市民優秀責任官」など多くの栄誉を受けた。
7. 2014年12月、共産主義青年団中央や教育部による「CSRチャイナ模範賞」「CSRミニブログ公益宣伝特別賞」「CSR映像公益宣伝特別賞」「CSRチャイナリーダーシップ大賞」などを受賞した。
8. 2014年12月、『WTO経済導刊』による「金蜜蜂2014優秀な企業CSRレポート 外商及び香港・マカオ・台湾企業賞」を受賞した。
9. 2014年12月、キヤノンは『南方週末』が選出した「中国における世界トップ500社の貢献ランキング」で年間ベスト企業第8位を頂いた。
10. 2014年12月、『人民日報』による「2014CSR中国文化賞・影響力ベスト賞」と「2014CSR中国文化賞・傑出貢献人物賞」を受賞した。
11. 2014年12月、中国外商投資企業協会と『WTO経済導刊』が共同で発表した「中国外商投資企業のCSR履行優秀事例集」には、キヤノン（中国）は三つの事例類別に入選し、入選する事例の一番多い外資企業のひとつとなった。
12. 2014年12月、「映像支点が文化の未来を支え」が中国工信部「電子情報業界企業CSR模範実践事例集」に組み入れられた。
13. 2014年12月、智連招聘による「2014年度ベスト雇主トップ20」の名誉称号を頂いた。
14. 2015年1月、中国社会科学院が発表した『中国企業CSR研究レポート（白書）』では、『キヤノン（中国）企業CSRレポート2013—2014』は評価四つ星半で、第21位を占め、外資企業の第5位を頂いた。
15. 2015年1月、中国貧困扶助基金会と北京大学など百家の高校と共同で発表し、「2014中国高校公益ベスト推進力賞」を受賞した。
16. 2015年2月、中国社会科学院が発表した第1部『企業公益青書（2014）』において、キヤノン（中国）企業公益発展指数が評価四つ星半を頂いた。日本企業のランキングで第1位を占め、外資企業トップ100社においては第2位にあり、中国企業トップ300社では5位を占めた。「映像公益」プロジェクトは「十大五つ星級企業ブランド公益プロジェクト」に入選した。

3. CSR 活動(2009年～今まで)

(1) キヤノン（中国）有限公司の CSR 活動

CSR活動1	キヤノン（中国）シルクロード文化遺産保護プロジェクト			活動分野	他（文化保護）
活動期間	2014年～ 今まで	実施地域	シルクロード	パートナー	文化部中外文化交流センター

目標：シルクロード沿線の重点地域にある無形文化財の保護

受益者：シルクロード沿線の重点地域及び社会一般市民

内容：2014年8月、キヤノン（中国）シルクロード文化遺産保護プロジェクトが開始された。まず、陝西国家級無形文化財—華陰老腔影絵芝居は8,000あまりの写真及び約30時間の映像を記録した。10月から11月にかけて、唐三彩職人高水旺を訪ねた。12月には、キヤノン（中国）は当プロジェクトの指導機構である文化部中外文化交流センターと協力覚書に署名した。2015年6月、キヤノン（中国）シルクロード文化遺産保護プロジェクトによる甘粛での活動が河西回廊に残る中西文化交流の跡を発掘し、シルクロード沿線の重点地域にある無形文化財の保護に貢献した。

関連写真：



タイ族架子孔雀舞継承人の実演



ミャオ族無形文化財保護の
成果展示



雲南省周城村の村民が扎染
を実演する

(2) キヤノン（中国）在中國関連企業の CSR 活動

CSR 活動1	キヤノンイメージブリッジ—希望小学校の教育支援			活動分野	教育
活動期間	1995 年～今まで	実施地域	貧困地域	パートナー	販売業者、中国青少年発展基金会

目標：貧困学生に関心をもって、中国の恵まれない地域の教育事業に自分の力を注ぐ。

受益者：恵まれない地域の貧困学生

内容：1995 年より、キヤノン（中国）及び在中國関連企業は中国青少年発展基金会の遼寧、河北、天津、江蘇、重慶、四川などの地域希望小学校を 9 校つくった。2007 年キヤノン（中国）は「助け合い」プロジェクトをはじめ、学校施設のリニューアルと教育映像設備の寄付を行い、映像を通じた教育を施し、教育環境と質を高めた。また、キヤノン（中国）及び在中國関連企業は希望小学校のために募金を展開し、校舎、日曜教育施設、運動場などの修繕と補充に使用した。そして中国での協力会社及び社員個人も助学活動に積極的に参加している。

成果：2006 年から 2014 年まで、キヤノン（中国）商務映像方案部は 55 名の販売業者と一緒に山奥へ行き、援助と配慮を必要とする学生たちを訪ね、累計で 143 万元を 9 カ所の小学校教育条件の改善に使い、その利益を受ける学生数は 3,000 人以上になった。

関連写真：



CSR活動2	大連エコリサイクル		活動分野	環境
活動期間	1991年～ 今まで	実施地域	キヤノン大連弁公設備有限公司	パートナー なし

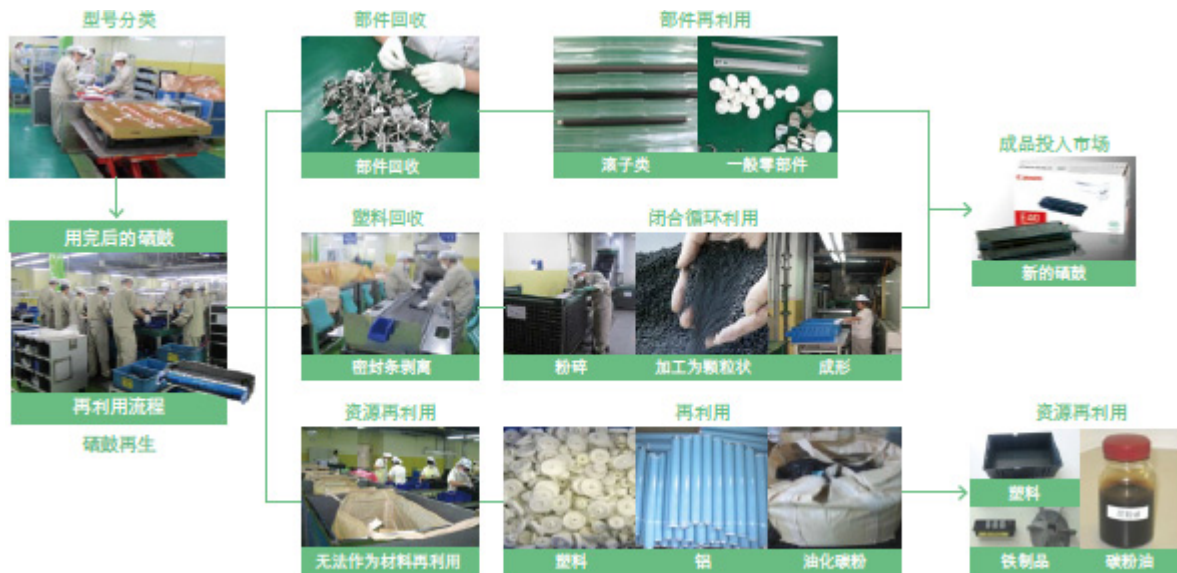
目標：地球環境との共生を考慮して、マニュファクチャラーが履行すべき責任を全うする。

受益者：社会公衆

内容：1991年から、キヤノン大連は中国での初めての回収トナーカートリッジ再製造拠点となった。以来25年間、キヤノン大連は絶えず技術の難関を突破し、自動リサイクルシステムを整え、科学的方法で部品の生命周期に沿ってトナーカートリッジをリサイクルし、再製造している。磨耗に強く、使用寿命の長い部品についてはチェック後リユースする。磨耗に弱い部品は材料としてトナーカートリッジの生産に使われる。ほかの部品などは資源としてリサイクルされる。

成果：キヤノン大連のトナーカートリッジの回収量はキヤノンが世界での回収量の20%以上を占め、100%の資源リサイクル率を実現した。

関連写真：



キヤノン（大連）トナーカートリッジリサイクルシステム

4. 社会組織との連携(2009年～今まで)

プロジェクト1	キャノンイメージブリッジ—映像交流		パートナー	中国青少年発展基金会、中小学校	
プロジェクト分野	教育	連携方式	企業慈善（寄付）		
実施地域	アジア	プロジェクト期間	2008年～ 今まで	プロジェクト経費	不明

連携内容：キャノン（中国）は中国青少年発展基金会管轄内の100の希望小学校で「映像・希望の光」プロジェクトを展開した。映像で身の回りのことを記録することから、自分の学習、生活をイメージで分かち合うことを小学生たちに教え、それによって中国での100校の希望小学校の学生たちの交流と友情を深めた。その後、全アジアに広げて、2013年には「キャノンイメージブリッジ」プロジェクトとアップグレードし、2014年にはアジア初の青少年イメージ交流公益プラットフォームを創設した。2014年末まで、10のアジアの国と地域の179校、約5,600名の学生がイメージブリッジに参加し、交流写真は累計で1万2,119枚に達した。

企業の収益：キャノンの映像技術を借り、基金会は直接社会問題に触れ、そして解決することができる。「映像公益」は青少年に世界を見つめる目を光らせると同時にソフトパワーを高めることも実現できる。したがって、公益活動は「ハードウェア」と「ソフトパワー」の進歩にもつながる。

社会組織の収益：キャノン（中国）は自身の特長を生かし社会に貢献している。「共生」理念を基礎に、「イメージ公益」を手法とし、青少年の成長に関心を寄せると同時に異文化交流の場をつくり出すこともできる。また、従業員のボランティアで企業の社会責任の意識が企業間で普及し、企業のブランドと社会価値を最大化する。

キャノン（中国）は2012年中国青少年基金会最優秀パートナー賞を受賞した。

関連写真：



重慶双槐鎮希望小学校



四川省成都雅安芦阳キャノン希望小学校

プロジェクト2	「あなたの思いやり、私の未来」慈善教育支援プロジェクト		パートナー	雲南麗江慈善總會	
プロジェクト分野	教育	連携方式	企業慈善（寄付）		
実施地域	雲南麗江	プロジェクト期間	2006年～ 今まで	プロジェクト経費	不明

連携内容：キャノン（中国）は全国の販売業者を率いて、ともに雲南山区の学生に寄付をし、当地学校の学習条件改善と貧困家庭の学生の教育を支援し、3,000人以上が援助を受けた。毎年4月から6月まで、キャノンはボランティア、カメラマンを連れ、麗江の辺鄙な山区へ趣き、当地の子どもたちの記念写真を撮り、一人ひとりの卒業生に印刷された記念写真をプレゼントする。そして、キャノン（中国）は販売業者やその他パートナーと一緒に子どもたちにプレゼントを贈る。

企業の収益：キャノン（中国）との連携で、援助を基礎に公益の実現方法に新たな形式を見いだすことができた。キャノンの技術は援助対象者に経済以上のもっと深い影響を与え、影響された学生たちは自信と文化に対する認識が高まった。

社会組織の収益：販売業者、社会組織とともに技術を生かして、従業員ボランティアと協力パートナーに呼びかけ、公益の理念を関係機構にもたらし、ともに社会責任を実行することを推進することができる。また、ブランド影響力を高めることもできた。

関連写真：



2014年キャノン（中国）のボランティアたちと沙力完小学校の学生たち

2-9 理光中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>理光は1936年に創立され、現在に至り約200の国と地域で事業を展開する多国籍会社となっている。2014年の連結売上高は2兆2,319億円、従業員数は10万9,950人（2015年3月31日現在）に達した。目下、理光は複合機（MFP）やプリンターなどのオフィス向け画像機器、プロダクションプリンター、サプライ製品、デジタルカメラ、またサーマルメディア、半導体、FAカメラなどの産業用製品、さらにマネージド・ドキュメント・サービス（MDS）、ITサービスなどに至る幅広いサービスやソリューションを提供している。</p> <p>理光は20世紀70年代に中国に進出し、1972年より中国での製品販売を開始した。現在、中国において、理光中国グループを中核に、市場の開拓、生産と研究開発などの幅広い事業をするグループとなっている。デジタル複合機、デジタル印刷機、レーザープリンター、建設機械、消耗品とオプション、及びシステムの解決策などを主な業務としている。</p>
統括会社	理光（中国）株式会社
ウェブサイト	http://www.ricoh.com.cn
設立年	2003年
資本金	4,109 万元
理念と方針	<p>創業の精神：三愛精神「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」</p> <p>私たちの使命：世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、提供しつづけることで、人々の生活の質の向上と持続可能な社会づくりに積極的に貢献する。</p> <p>私たちのめざす姿：世の中にとって、なくてはならない信頼と魅力のブランドであり続ける。</p> <p>方針：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自ら行動、自ら創造（自主創造） ◇ 相手の立場に立って、考え、行動する（貢献精神） ◇ 会社の発展と個人の幸福の統一を図る（人間本位）

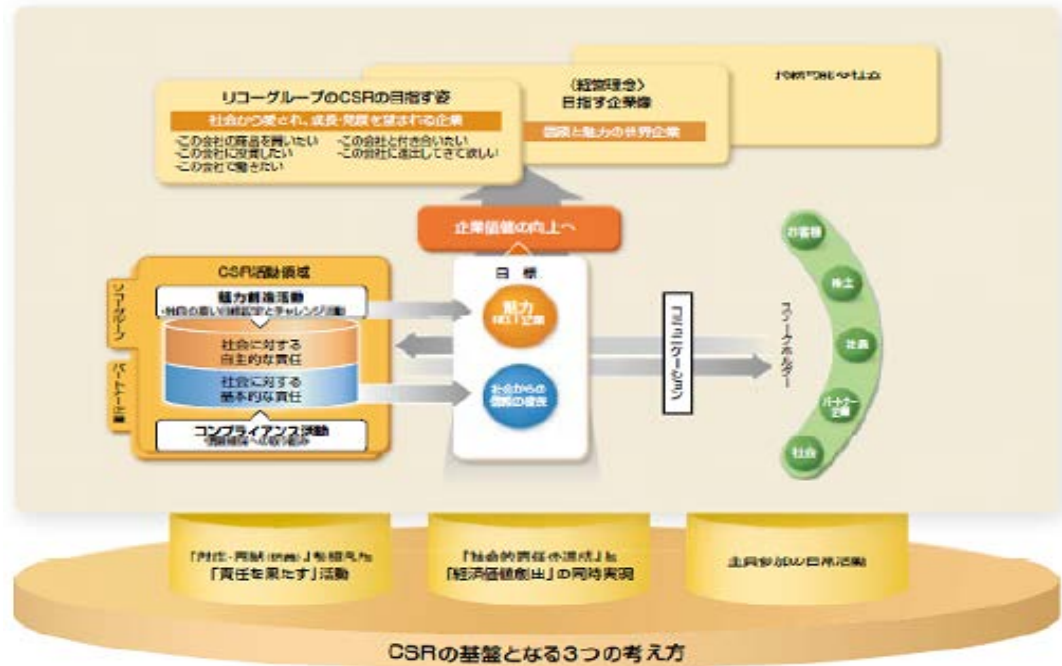
2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

CSR 成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2012～2013年、理光中国グループは『経済観察報』雑誌による「中国低炭素代表企業」の名誉称号を2年連続頂いた。 2. 2012年、理光中国グループは『IT時代週刊』雑誌による「企業社会責任ランキングリストトップ」の名誉称号を頂いた。
--------	--

3. 2012年、理光中国グループは『経済観察報』雑誌による「中国『持続可能な発展』の優秀企業」の名誉称号を頂いた。
4. 2012年、理光中国グループは『21世紀経済報道』雑誌による「中国低炭素パイオニア企業」の名誉称号を頂いた。
5. 2011年、理光中国グループは『21世紀経済報道』『デジタル商業時代』『IT時代週刊』などの主流雑誌によって、低炭素・環境保護関係賞を受賞した。

CSR 理念

■ リコーグループのCSRのめざす姿とフレームワーク



3. CSR 活動(2009年～今まで)

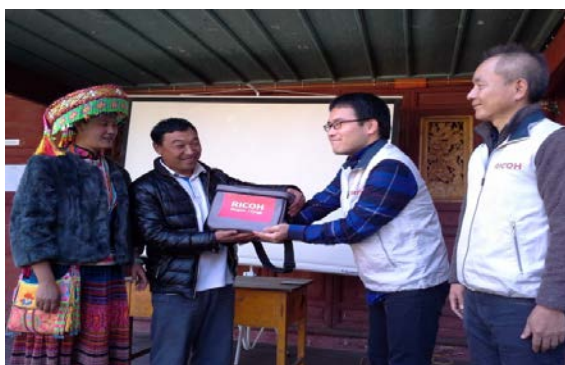
CSR活動1	理光グループ「四位一体」植樹活動		活動分野	環境
活動期間	2015年	実施地域	華東・華南	パートナー
活動内容	<p>目標：省エネ・排出削減と環境の最適化</p> <p>受益者：周辺の住民</p> <p>内容：2015年4月18日、理光（中国）投資株式会社上海支社は理光グループの7社の兄弟会社とともに崇明東灘湿地公園で植樹活動を行った。理光（中国）投資株式会社深セン支社は理光グループの7社の兄弟会社とともに深セン鳳凰山で植樹造林活動を行った。理光（中国）投資株式会社広州支社はクライアントと一緒に、華南植物園で植樹造林活動を行った。</p> <p>成果：華東地方では活動の日に143名が100本の木を植えた。深セン地方では、活動の日に35名のクライアントを含めた150名が200本の木を植えた。広州地方では活動の日に、40名のクライアントを含めた60名が60本の木を植えた。</p>			

関連写真：



CSR 活動 2	世界自然遺産「三江併流」保护区の森林生態系保護			活動分野	環境、教育
活動期間	2007～ 2017年	実施地域	雲南麗江	パートナー	アジア緑色文化国際交流促進会
<p>目標： 原住民の環境保全意識を高め、森林伐採・乱伐を防ぎ、森林生態系を保護・振興し、当地住民の生活を改善する。</p> <p>受益者： 当地住民と生態系</p> <p>内容： 本プロジェクトは以下の幾つかの段階に分けられている。①利苴村、黎光村と黎光小学を森林生態系の保護を重視する「生態村」につくり上げる。②本事業を推し進め、当地住民の収入を高め、生活を安定化させる。このほかに、環境保全を宣伝し、当地住民の教育結果を検証する。③当地の独立発展を図る。森林生態系保護の効果を測り、マニュアルの例を作成することによって、当地住民の自立を支援する体系をつくり、事業を当地住民に引き渡す。④環境保全意識を高め、不法行為を減らし、地方経済の振興と当地住民に豊かな生活を提供するとともに、その影響を他の地方に届けていく。</p> <p>成果： 8年間努力した結果、両地方の生態保護の効果が徐々に現れ、幾つかの宣伝センターと黎光村小学に生態保全宣伝基地をつくった。同時に、林中に係員と監視ステーションを設置し、森林伐採・乱伐を防ぎ、林間で価値ある木と薬材を栽培する指導を行い、現地住民の生活を改善した。</p>					

関連写真：



CSR活動3	青海玉樹地震・東日本大震災募金活動	活動分野	救災・減災・防災
活動期間	2010～2011年	実施地域	被災地
		パートナー	上海赤十字会

目標：救災

受益者：被災地

内容：2010年と2011年に青海玉樹震災と東日本大震災が相次いで発生し、理光（中国）投資株式会社組合は自社のCSR精神に基づき、従業員に玉樹と日本の震災に対する募金活動を呼びかけ、大きな反響を呼んだ。2回の活動で上海赤十字会に合わせて13万円の募金を寄付し、当赤十字会にも表彰された。

関連写真：

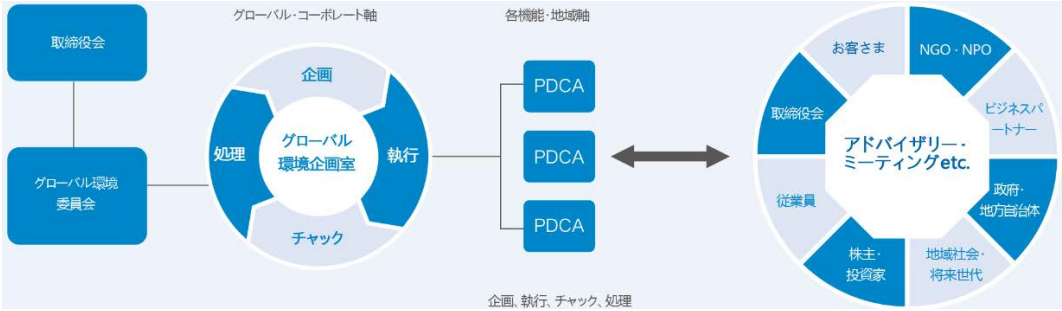


2-10 日産自動車中国グループ

1. 事業概要

会社概要	<p>世界をリードする自動車メーカーとして、日産自動車株式会社は1933年設立以来、人びとの生活を豊かにする企業ビジョンを堅持し、全世界の消費者のために品質の高い自動車製品とサービスを提供することに取り組んできた。現在まで、日産自動車株式会社は日本を含めて、全世界の約20カ国と地区に自動車製造拠点地を設立し、全世界160カ国と地域のために、品質の高い製品とサービスを提供している。現在の日産自動車株式会社は約16万余名の従業員を有している。</p> <p>日産自動車株式会社はかねてから中国市場を大切にし、1993年から中国に進出して以来、子会社としての日産（中国）投資有限公司、国内最大規模の自動車合資企業—東風自動車有限公司（以下、略称「東風有限」）を設立した。また、東風有限傘下の東風日産乗用車会社と鄭州日産自動車有限公司及び東風インフィニティ自動車有限公司と協力して、日産、インフィニティに関する事業を経営している。</p> <p>日産（中国）投資有限公司は2004年2月に設立し、約300名の従業員を有している。日産在中の子会社と中国地区の本部として稼働している。日産（中国）投資有限公司が日産自動車株式会社の本部と共同で在華投資業務を管理し、部品輸出、環境安全技術の渉外交流と認証、技術動向調査、知識財産権の保護などの業務を担当している。また、日産とインフィニティという二つのブランドの自動車モデル設計、日産在中の企業広報と渉外交流、企業の社会責任などの業務に取り組んでいる。</p>
統括会社	日産（中国）投資有限公司
ウェブサイト	http://www.nissan.com.cn
設立年	2004年
資本金	10億2,000万ドル
理念と方針	<p>ビジョン：人びとの生活を豊かにする。</p> <p>使命：私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供する。それらはルノーとの提携の下で行っている。</p>

2. CSR 理念、方針、推進体制、成果

<p>CSR 方針</p>	<p>「人びとの生活を豊かにする」という企業ビジョンに基づき、日産は引き続き社会のために新しい製品、サービスとモビリティスタイルを提供している。「ブルーシチズンシップ」は、当社が企業ビジョンを実現する約束である。日産はお客様、従業員、株主、事業地域における公衆に向け、将来、価値ある持続可能なモビリティスタイルを提供している。また、当社は持続可能な発展を企業の重要な戦略のひとつとしている。環境、安全、社会貢献、品質、バリューチェーン、従業員、経済的貢献、コーポレートガバナンス・内部統制をステナビリティ戦略として定義し、このステナビリティ戦略によって、特有の CSR モデルを形成させた。</p> 
<p>推進体制</p>	<p>グローバル環境管理システム：</p> <p>環境分野の目標をよりよく実現するために、日産がグローバル環境管理システムを構築し、各方面の仕事を着実に進めている。そのなか、グローバル環境管理委員会は環境関係業務の担当役員から成っている。年に 2 回の環境専門会議で取締役会に提出する環境議題を確定し、最終企画と方策を決定する。また、環境企画部門を設置し、環境関連の活動の具体的企画と実施を担当している。2013 年、中国での中国環境管理委員会を設置した。それによって、日産の在中国企業の環境管理レベルを大幅に高めるとともに、環境保護問題で、子会社とのより良い協力関係を構築できている。</p> 
<p>CSR 成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2015 年、『WTO 経済導刊』より、日産（中国）が「金蜂蜜賞・リーダー型企业」に入選した。 2015 年、『南方週末』より、日産（中国）が「最も責任感のある企業」に入選した。 2015 年、『自動車運転とメンテナンス』より、鄭州日産が「年度車主公益活動賞」を受賞した。 2014 年、『公益時報』より、日産（中国）が「2013 年度中国企業社会責任（CSR）公益事例卓越賞」を受賞した。

5. 2014年、『南方週末』より、日産（中国）が「世界500強企業在中国社会貢献ランキング」で第21位を頂いた。
6. 2014年、中国買車網と中華工商時報より、日産（中国）が「特別貢献賞」を受賞した。
7. 2014年、『21世紀経済報道』より、日産（中国）が「中国最優秀企業公民」に入選した。
8. 2014年、『南方都市報』より、日産（中国）が「2014年度中国自動車企業貢献賞」を受賞した。
9. 2014年、『公益時報』より、日産（中国）が「第3回中国企業社会責任卓越賞」を受賞した。
10. 2014年、中国貧困扶助基金会より、日産（中国）が「2012年度貧困扶助愛心賞」を受賞した。
11. 2014年、中華健康急行列車基金会より、日産（中国）が「光明公益賞」を受賞した。
12. 2014年、『中国青年報』より、東風日産が「2014年度十大青少年エンジニア」に入選した。
13. 2014年、『経済観察報』より、東風日産が「2014年度持続可能な発展優秀事例」に入選した。
14. 2014年、広東省雇主工作聯合出席会議より、東風日産が「2014年度広東省最優秀雇主」に入選した。
15. 2014年、『中国青年報』より、東風日産が「2014グリーン環境保護年度公益活動」に入選した。
16. 2014年、『自動車ビジネス評論』より、東風日産が「2014年度中国自動車企業社会責任ノミネート賞」を受賞した。
17. 2014年、『公益時報』より、鄭州日産が「第4回中国企業社会責任卓越賞」を受賞した。
18. 2014年、『自動車ビジネス評論』より、鄭州日産が「2014年度中国自動車企業社会責任最優秀教育公益実践賞」を受賞した。
19. 2014年、『南方都市報』より、鄭州日産が「2014年度中国自動車企業貢献賞（教育愛護）」を受賞した。
20. 2014年、鄭州慈善總會より、鄭州日産が「第2回鄭州慈善風雲手本」称号を頂いた。
21. 2014年、『自動車ビジネス評論』より、東風インフィニティが「2014年度中国自動車企業社会責任年度前衛人物賞」を受賞した。
22. 2014年、『国家人文歴史』より、東風インフィニティが「第1回CSR中国文化賞リーダー賞」を受賞した。

3. CSR 活動（2009 年～今まで）

CSR 活動 1	NISSAN 杯青少年交通安全知識コンテスト		活動分野	その他（交通安全）	
活動期間	2006～2014 年	実施地域	全国各地	協力パートナー	不明
<p>目標：青少年の安全、環境保護、省エネルギーなどへの理解を深め、交通安全意識を向上させる。</p> <p>受益者：青少年</p> <p>内容：2006 年から、日産（中国）は計 8 回の NISSAN 杯青少年交通安全知識コンテストを開催してきた。オンラインで、青少年の安全、環境保護、省エネルギーなどへの理解を深め、交通安全意識の向上に取り組んでいる。</p> <p>成果：今まで、全国 16 の都市の約 100 校で実行され、約 20 万人以上の学生がその利益を受けている。2014 年度の第 8 回 NISSAN 杯青少年交通安全知識コンテストは全国各地の約 2,809 人の学生を動員した。</p>					
<p>関連写真：</p> 					

CSR 活動 2	ライフラインエクスプレス		活動分野	医療衛生	
活動期間	2006 年～ 今まで	実施地域	全国各地	協力パートナー	中華健康急行列車基金会
<p>目標：白内障を患う患者の視力回復を支援</p> <p>受益者：白内障を患う患者</p> <p>内容：2006 年から、毎年、日産（中国）は中華健康急行列車基金会、商務部との共同プロジェクト「健康急行列車」に資金を寄付している。寄付金によって、中国貧困地区の白内障を患う患者が無料で手術治療を受けることができるようになっている。</p> <p>成果：現在まで、日産（中国）は 100 万元以上の寄付金を寄付し、約 600 人の白内障患者の視力が回復した。</p>					

関連写真：



CSR活動3	陽光愛護・助教未来		活動分野	教育
活動期間	2009年～ 今まで	実施地域	全国各地	協力パートナー
				販売パートナー、車主

目標：山地地区、貧困地区、辺鄙地区など経済的に貧しい地区に対して、助教、教師研修、物資寄付などを行う。

受益者：経済的に貧しい地区の子どもたち

内容と成果：2008年6月、東風日産は陽光愛護基金を設立した。本基金会は社会のために、長期にわたって救助活動を行っている、東風日産の従業員、販売パートナー、車主の愛を集めて、行動で社会貢献に取り組んでいる。「陽光愛護・助教未来」プロジェクトは2009年7月よりスタートし、5年間で、全国10省の15カ所で教師訓練資金、教学教材、学習用品などの物資を含めた2,000万元以上の物資を寄付した。70万人以上の教師と学生が受益者となった。2014年の「陽光愛護・助教未来」プロジェクトは大学生に向けて、「夢探し公益行」活動を発起した。18名の大学生から成る助教チームが雲南省と貴州省の山地地区の6カ所の小学校で約3,500人の子どもたちに1週間にわたる「ドリームレッスン」を展開し、学習ファイルを設置した。

関連写真：



4. 社会組織連携（2009年-今まで）

協力プロジェクト1	日産夢教室	パートナー	中国貧困扶助基金会：北京市 UNESCO 協会		
プロジェクト分野	教育、環境	協力方式	企業慈善、スポンサーシップ、共通課題への取り組み		
実施地域	全国各地	プロジェクト期間	2013年～ 今まで	プロジェクト経費	600万円

協力内容：日産（中国）は東風日産、鄭州日産と協力し、中国道路交通安全協会、中国貧困扶助基金会と共同で「日産夢教室」プロジェクトをスタートした。本プロジェクトは貧困地区の中小学校に向けて、「日産夢教室」課外活動センターを構築した。また、全国各地で「日産夢教室シリーズカリキュラム」活動を繰り返している。2014年4月から、本活動は北京市、上海市、四川省、武漢市、鄭州市と雲南省など各地の小学校で繰り返されている。また、一部の小学校では正式な社会実践課程としてこの活動を導入している。今まで、4,000人以上がこの活動に参加した。

企業収益：①良きブランドイメージを構築し、ブランドの認知度と名誉度及びその影響力を高めることができた。②従業員の栄耀感と帰属感を高めることができた。

社会組織収益：①貧困地区の子どもたちの課外知識不足の問題を解決できた。②社会組織がこのプロジェクトを通じて、実行費用を得て社会組織の発展に貢献している。③企業と社会組織の知名度と社会影響力アップにつながっている。

関連写真：



協力プロジェクト2		青少年自動車模型創意コンテスト		パートナー	北京市 UNESCO 協会：中国教育学会
プロジェクト分野		教育	協力方式	企業慈善、スポンサーシップ、共通課題への取り組み	
実施地域	全国各地	プロジェクト期間	2014年～ 今まで	プロジェクト経費	100万円

協力内容：2014年より、日産は北京市 UNESCO 協会に招かれ、中国教育学会と中国科学技術協会青少年センターと連携し、青少年自動車模型創意コンテストを北京展覧館で主催した。UNESCO に招かれた中国初の自動車メーカーとして、日産（中国）は選手のために、活動賞品と落書き用車を提供し、日産夢教室の授業を中国に導入した。

企業収益：①良きブランドイメージを構築し、ブランドの認知度と名誉度及びその影響力を高めることができた。②従業員の栄耀感と帰属感を高めることができた。

社会組織収益：①貧困地区の子どもたちの課外知識不足の問題を解決できた。②社会組織がこのプロジェクトを通じて、実行費用を得て社会組織の発展に貢献している。③企業と社会組織の知名度と社会影響力アップにつながっている。

関連写真：



協力プロジェクト3		「敢愛星球」公益行動		パートナー	壹基金
プロジェクト分野		社会サービス（自閉症群體）		協力方式	企業慈善（寄付活動）
実施地域	全国各地	プロジェクト期間	2014年～ 今まで	プロジェクト経費	600万円

協力内容：インフィニティは壹基金と協力して、600万円の起動資金を提供した。双方は保護者成長と訓練、特殊教師訓練、大衆教育、政策アピールなどの4分野をめぐって、連携活動を展開している。自閉症群體の社会適応能力と彼らへの注目を寄せ集め、販売先を参加組織とする「敢愛星球」公益行動ネットワークを構築し、全国各地で愛護活動を行っている。

2014年、インフィニティ本部は16回の自閉症児童への愛護活動、129回の「敢愛星球」愛護活動と5回の大型訓練活動を行った。「敢愛星球」公益行動に参加した17の販売先は愛護活動を計24回主催した。そのなか、1万434人の自閉症児童と家庭、144カ所の公益組織が受益者となり、267名が就職訓練を受け、6万2,244人以上の人々と270人のインフィニティ車主が参加した。

企業収益：①良きブランドイメージを構築し、ブランドの認知度と名誉度及びその影響力を高めることができた。②従業員の栄耀感と帰属感を高めることができた。

社会組織収益：①貧困地区の子どもたちの課外知識不足の問題を解決できた。②社会組織がこのプロジェクトを通じて、実行費用を得て社会組織の発展に貢献している。③企業と社会組織の知名度と社会影響力アップにつながっている。

関連写真：

